



第64回全国造形教育研究大会

第62回造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会

第61回全道造形教育研究大会 札幌大会

全国造形教育連盟 日本教育美術連盟 共同開催

全国図画工作・美術教育研究大会 in 北海道

研究主題

“わたし”を創る

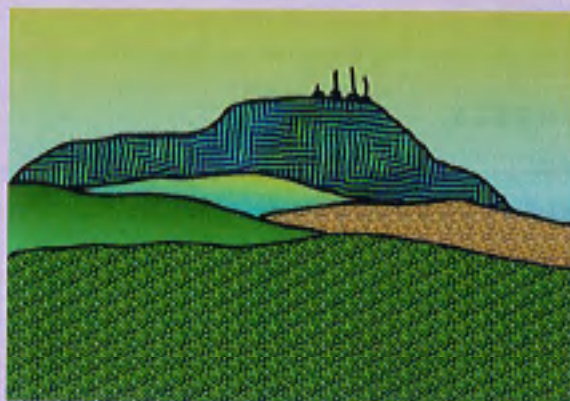
～自立と共生の造形活動をめざして～

授業実践テーマ「あったかい！」をつなげ合う造形活動

会期 2011.7.26～7.28

会場 札幌市立幌西小学校 札幌市立円山小学校
ホテルライフオーブ札幌 札幌市民ホール

主催 全国造形教育連盟 日本教育美術連盟
北海道造形教育連盟 札幌市造形教育連盟





CONTENTS

3 あいさつ

3 菅原清貴 (大会長 北海道造形教育連盟会長)

永関和雄 (全国造形教育連盟委員長)

4 岩崎由紀夫 (日本教育美術連盟理事長)

塚野昭臣 (札幌市造形教育連盟会長)

5 祝辞

5 岡田京子 (文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官)

東良雅人 (文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官)

6 高橋教一 (北海道教育委員会教育長)

北原敬文 (札幌市教育委員会教育長)

7 奥村高明 (千葉県成徳大学教授)

村上尚徳 (岡山県環太平洋大学教授)

8 大会日程

10 授業分科会一覧

12 講評者プロフィール

13 研究の概要

14 研究主題について

15 研究主題と3つの扉について

22 こどものまなざしの扉

38 みらいへのまなざしの扉

50 教師のまなざしの扉

65 研究大会のあゆみ・ 規約・名簿

89 会場校紹介・開催地マップ・ 会場図



“わたし”を創る 共同の大会で語り合しましょう



全国大会会長
菅原清貴

全国造形教育連盟と日本教育美術連盟が共同で開催する「全国図画工作・美術教育研究大会 in 北海道」がいよいよ開催されます。

この大会は、造形教育を大切に思う多くの方々が集う大切な場にしたいと考えています。

さて、造形教育関係者の皆様をご承知のように学習指導要領の改訂の度「造形教育の危機」が語られてきました。現実には義務教育の中から標準授業時数が減られ、その足場は狭くなってきたのは確かです。多くの子どもたちが楽しみにしている学習であるにもかかわらず何故なのか。その要因は「学力低下論議」や「社会的不要論」など外的要因も多少あるのですが、私は主たる要因はこの学習をすすめる教師の側にあるように思うのです。つまり、かなりの数の教師が造形教育の指導に迷いをもち、この学習に見通しを立てることができずにいるのではないかと考えています。

そこで、今回の大会では、その「迷い」を少しでも取り去り、教師が自信をもって授業に臨めるようになるにはどうしたらよいかを全国の皆さんと語り合う大会にしようと考えています。造形教育の授業づくりを題材検討段階・展開段階・授業後の検証段階に分け「魅力ある造形教育」の在り方を考えてみたいと思っています。子どもたちの「本気の力」を引き出し、授業の中から「ステキなつぶやき」がたくさんあふれ出る姿を目指します。

今研究主題は、「わたし」を創るです。このテーマは、北海道の先生方がパソコンのネットワークを使いながらまとめ上げたものです。これは造形教育の魂にも通じる見事な主題だと思っています。子ども達が一枚の画用紙に向かう時、奮い立つような題材が提案され、「さあここに私を描くわ!」と思える授業ができれば最高ではないでしょうか。

子どもと教師、子どもと子ども、子どもと対象がやさしい輪となり繋がりが合い、教室中がほんのりと“あったか”な空気に包まれることを期待しています。最終日に計画されている、市民ホールでの「全員シンポジウム」と題した大討論会も楽しみです。

最後になりましたが、2つの造形教育研究全国団体のご尽力に深く感謝申し上げます。

アートで日本を元気に



全国造形教育連盟委員長
永関和雄

3月11日、東日本の太平洋側を中心に大災害に見舞われた日本は、戦後最大の危機にあります。大地震の後の巨大な津波、福島原子力発電所爆発事故といった一連の震災被害は深刻で、それに付随した生産活動、流通活動などの被害は経済活動の停滞や風評被害と合わさって日本中に暗い影を落としています。そんな中、今年で64回を迎える全国造形教育研究大会北海道大会の開催を危ぶむ声もありましたが、多くの関係者の勇気と力で開催の運びとなったことに心より感謝し、大変嬉しく思います。

「わたし」を創る～自立と共生の造形教育をめざして～を大会テーマに大震災から問もないこの時期に、第64回全国造形教育研究大会が、日本教育美術連盟、北海道造形教育連盟、札幌市造形教育連盟とともに「全国図画工作・美術教育研究大会 in 北海道」として開催されることには大きな意義があります。

私たち人間にとって造形活動は文化や社会生活の原点です。人間は造形活動によって文化や社会生活の発展を実現し、罪を開いてきたとも言えます。しかも、造形活動や造形表現には人を勇気づけ元気にする力があり、私たち造形美術教育の指導者はそれを信じて教育活動を続けてきました。

今回の北海道大会では、造形美術教育にかかわる様々な教育者が校種を越えて理解し合い、研究を深めることを目指しています。全国造形教育連盟では現在、「元気を出そう日本」の思いを込めて世界の児童画を被災地に展示したり、たくさんの子どもの笑顔をポスターにしてビジュアルコミュニケーションの力で被災地の人々を応援しています。「アートの力で日本を元気にしたい」という思いを共有し、本大会の研究成果を全国に発信することによって被災地をはじめ日本の力強い復興を予感させるような大会にいたしましょう。

北海道大会に期して



日本教育美術連盟理事長
岩崎 由紀夫

未曾有の東北大震災、原発事故に対しまして、心よりお見舞い申し上げますとともに、一人でも多くの方々の回復と一日でも早い地域復興をお祈り申し上げます。

こういった中、全国図画工作・美術教育研究大会 in 北海道が開催できますことを全国の美術教育と子どもたちを愛する先生方とともに祝したいと思えます。本大会は、大会テーマを「わたし」を創る～自立と共生の造形教育をめざして～とし、全国造形教育連盟、日本教育美術連盟、北海道造形教育連盟、札幌市造形教育連盟が主催となり、共同開催となります。日本教育美術連盟にとりましては、福島以東、初の北海道大会であり、感無量です。開催にあたりまして、ご尽力いただきました各大会関係諸団体、各研究会、後援諸団体等の皆様に心からお礼申し上げます。

さて、「生きる力」をスローガンに保育指針や教育要領、学習指導要領が改定され、小学校では、図画工作科の教科目標に「感性を動かしながら、つくりだす喜びを味わうようにする」と記されていますように、知識や技能は「つくりだす喜び」とともに習得され、活用されることで、身に付き、応用できるようになります。一人一人の子どもたちが表現や鑑賞の活動を通して、思考力・判断力・表現力を習得、活用しながら、形や色、言語等を用いて、コミュニケーションを図り、成長していくことのできる教材を開発したり、授業を創造したりしていかなければなりません。

日本教育美術連盟は、発足当初より、授業研究を柱にして新しい教育の復興と美術による子どもの心の教育を願ってきました。連盟が提唱する「教育美術」は学校教育活動全体に位置する人間形成の軸となる教育としての美術教育活動の追究であり、この教科のもつ文化としての心の教育に対する大きな働きやすべての基礎にある感性や感覚の教育としての可能性を改めて唱えていく必要があります。

「あったかい!」をつなげ合う



札幌市造形教育連盟会長
塚野 昭臣

多くの方が被害に遭い、多くの方が避難生活を余儀なくされている東日本大震災、亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、お見舞い申し上げます。

テレビのニュースなどでは、つらい映像もありますが、そのような中で、学校で元気に活動している子どもたちの姿に、何かあたたかな気持ちになります。そのような子どもたちの姿の陰には多くの先生方のご努力があるのだと思います。

さて、「全国図画工作・美術教育研究大会 in 北海道」では、全国から来道される多くの先生方とともに、大会主題であります「わたし」を創る～自立と共生の造形教育をめざして～について、これからの子供たちの学習や、これからの造形教育の在り方について共に考えたいと思います。

札幌市造形教育連盟では、研究主題にあります「あったかい!」をつなげ合う造形活動について取り組んでいます。このことは、子どもたち一人一人の想いを大切にしたい造形活動を教師が支持し、活動を共にする仲間を含め、みんなが「あったかい!」という心のあたたかさ、思いになるために、教師がどのように指導し、また、支援するのに必要なことは「何」なのかを研究することと考えています。

私たちはこのことを「心の発動」「感動の共有」という2つの視点をもとに授業、造形活動に取り組んでいます。

これからの造形美術教育では、「共通事項」にみられる育てる資質・能力を明確にし、どのように育てるのか、また、生活の中の造形美術の働きや関わりを自覚させる活動、美術文化についての理解を深める指導などが求められています。

最後になりましたが、本大会の開催にご協力いただいた多くの団体、皆様に感謝申し上げますとともに、「あったかい!」をキーワードとして、全国からご参加いただいた多くの方々と交流を通して、本大会が実り多い大会になることを祈念して、ご挨拶といたします。

全国図画工作・美術教育研究大会 in 北海道



文部科学省初等中等教育局
教育課程課教科調査官

岡田京子

東日本大震災において被災された皆様へ、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈り申し上げます。そして被災地支援活動を行うすべての皆様に敬意を表します。

本年度、小学校においては新学習指導要領が全面実施になりました。中学校においても移行期間の最終年度となります。今後ますます、このような時だからこそ、目の前のひとりひとりの子どもに目を向け、子どもの学びの充実にご尽力頂きますようお願い申し上げます。

大会テーマ『“わたし”を創る～自立と共生の造形教育をめざして～』のもと、全国図画工作・美術教育研究大会 in 北海道が、開催されますことを心からお祝い申し上げます。

子どもたちの大半は造形活動の時間が大好きです。毎時間、期待をもって臨みます。それはおそらく「今日は何をしようかな」「どんな自分に会えるかな」という期待です。まさしく『“わたし”を創る』につながるものです。自分の感じたことを表現できる、思ったことを語り合える、そんな造形活動の時間を、先生方が日々研究しつくりだしているということが、子どもたちの期待を支えています。

また、子どもたちが“わたし”を創るのと同時に、子どもの姿から造形活動について考える私たちも、新しい“わたし”を創っています。大会はそれを実感できる場です。授業や協議会で、造形活動で子どもは豊かに育つということを確認しあい、未来に生きる子どもを、自信をもって育てていく力にしていきましょう。

最後になりましたが本大会を開催するにあたりまして、ご尽力いただきました関係各位の皆様へ深く感謝申し上げますとともに、本大会のますますの発展とお集まりの皆様方のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞



文部科学省初等中等教育局
教育課程課教科調査官

東良雅人

全国図画工作・美術教育研究大会が、全国各地からの多数の先生方の御参加のもと、北海道の地で盛大に開催されますことに対し、心よりお喜びを申し上げます。

本研究大会のテーマ『“わたし”を創る～自立と共生の造形教育をめざして～』にあります「自立と共生」はこれから私たちが実現していかなければならない大切なことだと思います。図画工作、美術教育は子どもたち一人一人が心の中にある自分の思いや考えを形や色で表現することや見つめること、感じとることを通して、自分なりの意味や価値を生み出す創造的な活動です。その活動の中で、今の自分を見つめることが子どもたちが独り立ちすることへのきっかけをつくり、他者と形や色を通してつながることで人と人との関係を深め、広がりをつくっていきます。また、新しい価値のあるものをつくり出す力やよいもの、美しいものをつくり出す喜びは生きるエネルギーを生み出す原動力になります。我が国は3月11日に大規模の大震災「東日本大震災」に襲われ、多くの尊い命が奪われ、各地に甚大な被害を与えました。今、子どもたちの笑顔を取り戻し、これから再び人と人をつなぐためにも図画工作、美術教育が担う役割は一層大きいものだと思います。

小学校では今年度より新しい学習指導要領が全面実施となり、中学校も来年度の実施に向かって移行期間の最後の年度となりました。この時期に、全国から多くの先生方が集まり、研究発表や研究協議を通して、「子どもたちの学びのイメージ」を本大会の参加者一同が共有できますことを心から御期待申し上げます。最後になりましたが本研究大会の開催のために、ご尽力されました関係者の方々に感謝申し上げますとともに、本研究会の一層のご発展と皆様方のご健勝を祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

祝 辞



北海道教育委員会教育長
高橋 教一

第64回全国造形教育研究大会・第62回造形表現・
図画工作・美術教育研究全国大会が、全国各地から
多くの先生方をお迎えして盛大に開催されますこと
を、心からお祝い申し上げます。

貴連盟におかれましては、長年にわたり組織的・
計画的に研究・研修を積み重ねられ、全国の造形・
美術教育の振興・発展にご尽力いただいております
ことに深く敬意を表します。

さて、これからの国際社会を生き抜く日本人を育
成するためには、我が国や郷土の伝統と文化を大切
にし、そのよさを継承・発展させるための教育や、
諸外国の文化や歴史に敬意を払い、人々と共存して
よりよい社会を形成していくための教育を充実させ
ることが求められております。

とりわけ、図画工作、美術、芸術の教育において
は、創造することの楽しさを感じさせるとともに、
生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をも
って、生涯にわたり創造的な活動に主体的にかかわ
っていく態度を育むことなどが重視されております。

このような中、本研究大会が「わたし」を創る
～自立と共生の造形教育をめざして～」を主題に掲
げ、「『あったかい！』をつなげ合う造形活動」を
テーマに開催され、幼稚園から小・中学校、高等学
校、大学までの幅広い学校種が参加し、新しい造形
教育などに関する分科会や授業公開等を通して、今
日的な課題に積極的に取り組み、研究を深めること
は、誠に時機を得た取組であり、今後、本研究大会
の成果が、造形・美術教育の一層の充実に寄与する
ものと大きな期待を寄せているところであります。

本道におきましても、美しく豊かな自然の中で、
各学校が、子どもたちの感性を豊かにし、美術を愛
好する造形・美術教育の充実に努めており、本研究
大会が本道教育の充実・発展に大きく寄与するもの
と考えております。

結びに、本研究大会の開催に力を尽くされた関係
の皆様方に心から敬意を表しますとともに、大会の
ご成功と貴連盟の一層のご発展を祈念し、お祝いの
言葉といたします。

祝 辞



札幌市教育委員会教育長
北原 敬文

このたび、全国造形教育連盟と日本教育美術連盟
の共同開催により、第64回全国造形教育研究大会及
び第62回造形表現・図画工作・美術教育研究全国大
会並びに第61回全道造形教育研究大会札幌大会が
「全国図画工作・美術教育研究大会 in 北海道」と
して、札幌市において開催されますことをお祝い申
上げますとともに、造形教育に携わる多数の方々
のお越しを心から歓迎いたします。

現在、本市では、心豊かに暮らせる文化の薫り高
きまちづくりを目指して、平成21年に策定した「札
幌市文化芸術基本計画」の下、文化芸術に関する施
策を総合的に進めているところであり、文化芸術の
振興を担う人材の育成のためにも、幼稚園や学校に
おいて、子どもたちの芸術的感性や豊かな心を育む
教育の一層の充実に努めております。このような中、
各園・学校においては、「札幌芸術の森」や「札幌
コンサートホールKitara」などの文化施設を活用し
て、子どもたちが質の高い本物の文化芸術に親しみ、
その楽しさを実感する取組を進めており、特に、小
学校5年生が「札幌芸術の森美術館」で優れた美術
作品を体験的に鑑賞する「子どもの美術体験事業
ハロー！ミュージアム」は、文化芸術を愛好する心
情と豊かな情操を養う貴重な機会となっております。

本研究大会は、「わたし」を創る～自立と共生の
造形教育をめざして～」を大会テーマに掲げ、「『あ
ったかい』をつなげ合う造形活動」を授業実践テーマ
として、幼稚園及び各学校の20の授業公開、校種を
越えた分科会などが開催されると伺っております。
新学習指導要領が小学校において全面実施となり、
中学校も移行期間の最終年となる節目の時期にあっ
て、本研究大会の取組が今後の造形教育を充実・発
展させる指針となるとともに、子どもたちの豊かな
人間性や創造性の育成に貢献する実り多いものとな
るよう、大きな期待を寄せるものであります。結び
に、本研究大会の開催に向けてご尽力いただいた関
係者の皆様方に心より敬意を表しますとともに、全国
各地からお集まりの皆様のご健勝、ご発展を祈念し、
祝辞といたします。

大会主題の実現を願って



千葉県成徳大学教授

奥村 高明

“わたし”を創る～自立と共生の造形教育をめざして～ このテーマは手ごわい。なぜなら、これを理解するためには、(1)“わたし”が、他の何からも独立しているような不可侵の実体ではないこと、(2)様々な人、もの、こととの関係で成り立つような関係的な存在であること、を理解する必要があるからだ。

具体的に言えば、①“わたし”は、友達や先生、保護者など様々な人々の間にある、②“わたし”は、材料や用具、学習内容など様々なものやことの中で活動している、③“わたし”は、学校や地域、家庭など様々な施設や場で実感できる。どれが欠けても“わたし”は達成されない。様々な資源が関係し合う“教育の生態系”として成立している。

だから、“わたし”は、教育活動を通して育てることができる。自らの感覚や活動を通して、自分で「わたし」を創ることが出来る。友達と先生、学校や地域と一緒に「わたし」を創ることが出来る。それが「自立と共生」である。この一連の活動を「造形教育」という歴史的に形成された資源を通して実現する。そのことを「目指して」いる。その上で、造形教育が何を求められているのか、芸術や文化はどこに向かおうとしているのか答えを探そうとしている。

大会主題をこのようにとらえると、「『あったかい！』をつなげ合う造形活動」という研究主題は「複雑な関係をほどこいて、明らかにして、もう一度つなぎ直したい」というメッセージに聞こえてくる。同時に、大会に参加する方々へ“構え”を求めているようにも思われる。なぜなら「あなたは、一人の子どもから広がっている関係をとらえられるのか」、「子どもをどのような資源によって育てようとしているのか」と問われているような気がするからだ。おそらく、机上の空論は本大会では通用しないだろう。本大会の主題、計画、実践などを、当日の子どもの姿からとらえられるように心しておきたい。

以上のような奥深さと緊張感を持つ全国大会が、全国造形教育連盟、日本教育美術連盟、北海道造形教育連盟の共催によって行われることは意義深い。それは必ず造形教育、図画工作・美術教育の新しいスタートにつながると思う。

全国図画工作・美術教育研究大会が北海道で開催されることを心からお祝い申し上げます。

祝 辞



環太平洋大学
次世代教育学部教授

村上 尚徳

全国図画工作・美術教育研究大会 in 北海道の開催に対しまして、心よりお喜びを申し上げます。

今年4月から小学校で新学習指導要領が全面实施され、来年度、再来年度は、中学校、高等学校と続き、いよいよ新しい教育課程が本格的にスタートしました。今年度は、これから10年間の美術教育を具体的に考える大事な年であり、このような時期に美術教育の全国的な組織である全国造形教育連盟と日本教育美術連盟が合同で大会を開催し、全国の先生方が教科の本質や具体的な実践について語り合い、理解を深めることは大変意義あることと考えます。

我々の教科は、具体的な造形を通して、子どもたち自らが感じ取り、考え、働きかけ、実感を伴いながら造形的な感性や創造性、豊かな情操をはぐくむ教科といえます。また、作家個人がアトリエ等で一人で制作するような造形活動ではなく、園や学校という集団の場で互いに影響を受け合ったり、学校外の人たちとも交流をしたりするなど、他者と関わり合いながら行う造形活動であるという特質があります。本研究大会のテーマの「わたし」を創る～自立と共生の造形教育をめざして～には、このような美術教育のねらいや特質が押さえられており、このテーマのもと研究授業や研究発表、研究協議等を行うことは、実り多い成果が期待されます。

最後になりますが、開催のために、ご尽力されました関係者の方々に感謝申し上げますとともに、本研究会の一層のご発展と皆様方のご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



大会シンボルマークへの思い

北海道の形を刷毛が描いている部分は、2001年に北海道で開催した全国大会の私のデザインしたシンボルマークをもとにしています。全員の力で夢あふれる大会にしようという願いとグラデーションによる色彩は雄大な北海道の太陽・大地・森林・空・海を表したものです。

今回中央部分に2011を配置し、11を2本の絵筆で表しました。これは、全国造形教育連盟と日本教育美術連盟が共催する意義ある大会であることを表すと同時に、造形活動の創造と感動を表す「！！」エクスクラメーションマークを意味しています。



シンボルマークデザイン
北海道教育大学附属札幌小学校
教諭 堀口基一

大会日程

第1日目 7月26日(火)

会場 **ホテルライフオート札幌** 札幌市中央区南10条西1丁目（中島公園前）

日程

	9:30	10:00	12:00	13:00	13:30	15:00	16:30	17:30	
受付	全国大学造形美術教育教員養成協議会 2F ライフオートI ※今回は開催しないことになりました。		昼食	午後受付	校種別部会 幼稚園・保育園部会 2F ライフオートII	全国代議員会 2F ライフオートII	共同開催会議 2F ライフオートII	共同開催懇親会 17F サラ	
	◇来賓控室 2F コンプリオ ◇全造連実行委員控室 3F あおさぎ				小学校部会 4F アニマートI	全造連美術館部会 4F レガート			
			中学校部会 4F アニマートII	大学研究発表会 3F いずみ					
			高等学校部会 4F グラーブ 全造連大学部会総会 3F はなの	日美連全国理事会 2F ライフオートIII					

第2日目 7月27日(水)

会場	札幌市立幌西小学校 札幌市中央区南10条西17丁目1-1
	札幌市立円山小学校 札幌市中央区北1条西25丁目1-8
	ホテルライフオー札幌 札幌市中央区南10条西1丁目(中島公園前)

日程

8:30	9:00	9:25	10:50	12:30	13:30	13:45	15:30	15:45	16:45	17:30	18:00	20:00
受付	開 会 式 ・ 授 業 解 説	階設式授業公開	授 業 分 科 会	昼 食 ・ 休 憩 (会場校の児童による歓迎の合唱)	午 後 受 付	提 言 分 科 会	移 動 ・ 休 憩	扉 分 科 会	移 動	レ セ プ シ ョ ン 受 付	記 念 交 流 レ セ プ シ ョ ン	
		授業公開① 9:30~										
		授業公開② 9:45~										
		授業公開③ 10:00~										
		幼稚園・小学校 45分授業 中学校 50分授業										

◇昼食時には、各会場校の体育館で、会場校児童による合唱発表を行いますので、ぜひご覧ください。

第3日目 7月28日(木)


会場	札幌市民ホール 札幌市中央区北1条西1丁目1-1
	札幌芸術の森 札幌市南区芸術の森2丁目75
	モエレ沼 札幌市東区モエレ沼公園1-1

日程

9:00	9:30	11:20	11:50	17:00
受付	I 全体会 1 授業プレゼン 2 全員シンポジウム 3 講評 4 大会宣言	II 閉会式 1 大会長挨拶 2 次期開催地 代表挨拶 3 閉会	昼 食	オプショナルツアー ① 芸術の森コース ② モエレ沼コース

◇オプショナルツアーの参加は事前に申し込まれた方のみとなります。

授 業 ・ 提 言

原	題 材 名	授業者・学年	時間・開始時刻	授業会場	
幌 西 小	こ も 1	どんでん広がる みんなの色	伏見小 中川 治 1年	45分 9:45~	3階 工作室
	2	くるくるカラフル	緑丘小 濱口 裕子 4年	45分 9:30~	3階 5年5組
	3	ぼく・わたしの心もよう	伏見小 柿本美奈子 4年	45分 9:45~	2階 4年1組
	み ら い 4	空  遊ぶ	幌西小 土門 俊介 3年	60分 9:30~	体育館
	5	きこう はなそう かんじよう	中の島小 祖父江 瞬 6年	45分 10:00~	2階 あったかルーム
	6	Peace Message Card	あいの里東中 寺林 陽子 2年	50分 9:45~	1階 理科室
	7	にじいろの もりで あそぼう	いなづみ幼 三浦真奈美 年長	45分 9:45~	幌西の森 (前庭)
	8		幌西小 吉伊 宏子 2年	45分 9:45~	
	9	大切な相手へ ~色のおもてなし~	札苗北中 則友 芽子 1年	50分 9:30~	3階 ランチルーム
	10	高校の美術科のあり方と授業	旭丘高他3校 藤藤 岡 他3名	10:00~	3階 ふれあいルーム
幌 山 小	こ も 11	土の中たんけんたい	札苗幼稚園 高橋 梓 年長	45分 9:30~	4階 5年ws
	12	思いとび出して	手稲西小 藤岡 真弓 4年	45分 9:45~	4階 4年1組
	13	カラフル ワンダー ホール	円山小 宮田 珠世 3年	45分 10:00~	1階 エントランスホール
	14	感じて語ろう	西岡中 多田 絵美 2年	50分 9:45~	2階 多目的室
	15	My Life ⁺ ~土に思いをこめて~	米里中 細川亜矢子 2年	50分 9:30~	3階 6年4組
	み ら い 16	おもいを言葉に ~墨からの造形~ (心のレタリング)	手稲中学 川内亜矢子 2年	50分 10:00~	2階 理科室
	17	旅するムサビ in 札幌 ~featuring北教大~	武蔵美大生 北教大生	45分 9:45~	4階 4年3・4組
	18	もく木 トントン わ~くわく	あやめ野小 橋本 祥子 3年	45分 9:45~	2階 図工室
	19	くるくるワールド	百合が原小 矢野 宜利 3年	60分 9:30~	3階 3年ws
	20	みてみて発見! 日本の美~仏像編	屯田北中 市川 雅基 2年	50分 10:00~	4階 6年1組

一 覧 表

提 言 者			分科会 会 場	司会者	記録者	助 言 者		
愛 知	大宝小	河口 貴子	3 階 工作室	水野 一英 (宮の森中)	岩崎 重明 (南月寒小)	北海道	顧問	関 健治
北海道	附属釧路小	若林 朗子				沖 縄	比屋定小	榮野元康一
沖 縄	潮平小	宮里 雅代	3 階 2年1組	山 薫 (幌南小)	岩井 久根 (豊平小)	京 都	市教委	中下 美華
愛 媛	高浜小	木村 早苗				北海道	札幌学院大	藤井 正治
北海道	岩見沢小	竹田 睦生	2 階 1年5組	館内 徹 (あやめ野中)	高梨 美幸 (平岡南小)	東 京	花園小	横内 克之
東 京	向原小 上野千裕子/神小 内田佳代子					山 口	今宿小	弘中 順一
佐 賀	佐賀大附属小	富永 千晶	2 階 1年4組	藪下 栄一 (藤野南小)	東野 留美 (幌西小)	北海道	道教大岩見沢	阿部 宏行
北海道	大志小 岩崎愛子 江別第二中 井上由美					熊 本	楠 中	渡辺 浩之
熊 本	健軍小	星子 聖一	2 階 6年4組	白井 真澄 (二十四軒小)	奥山 綾芽 (常盤小)	神 戸	本多門小	貝森 忠人
広 島	川内小	川島 仁氏				北海道	道教大札幌	富田 泰
北海道	光陽中	吉野 法行	1 階 理科室	向井 正樹 (あいの里来中)	瀬川 欣子 (八軒中)	沖 縄	浦添中	金城 安正
沖 縄	東風中	二宮 陸生				大 阪	大阪教育大	佐藤 賢司
北海道	大地太陽幼	星 恵	1 階 3年2組	六本木祐司 (山鼻中)	上田 克美 (さくすい もともち幼)	北海道	大地太陽幼	坂本 行正
北海道	札幌英進幼稚園学院	若杉 由恵				千 葉	淑徳大学	横 英子
大 阪	今川小	狩谷 潤也	1 階 3年1組	櫻田 悟 (平和小)	石川 恭子 (平和小)	埼 玉	十文字学園	平田 智久
北海道	上更別小	土橋 直美				北海道	顧問	今 裕子
青 森	板柳中	高安 弘大	3 階 ランチルーム	浅井 邦昭 (北陽中)	久蔵美和子 (稲穂中)	山 梨	日野春小	浅川 徹
奈 良	二名中	江村 圭造				大 阪	堺市教委	田中 圭一
北海道	札幌大谷大学	平向 功一	3 階 ふれあいルーム	木原 英俊 (月寒中)	大町 香織 (向陵中)	北海道	札幌市教委	野切 卓
東 京	九段中 落合 良美 小野征一郎					東 京	武蔵野美術大	大坪 圭輔
北海道	なかのしま幼	西岡由花子	3 階 5年3組	森 美由紀 (白楊幼稚園)	高松 摩衣 (ひまわり幼稚園)	愛 知	愛知教育大	藤江 充
大 阪	成蹊大	堀見 知利				大 阪	成蹊短大	藪田 一子
北海道	中の沢小	赤坂 厳男	3 階 6年2組	川島 正夫 (手稲北小)	中村 麻紀 (厚別西小)	北海道	藤女子大	杉浦 篤子
北海道	三川小	佐藤 祈				北海道	教育センター	畑 俊明
北海道	上風連小	外川 篤司	体育館	福島由紀子 (円山小)	坂口 健 (平岸小)	広 島	大町小	栗栖 恒久
東 京	高島第五小	大畑 祐之				東 京	元全道連委員長	鈴木 弘之
大 阪	夕陽丘中	堺谷 朋美	2 階 多目的室	森岡 香子 (稲穂中)	浜口 秀樹 (平岡中)	京 都	石田小	平尾 隆史
北海道	柏陽中	工藤 由香				北海道	道教委	工藤 雅人
東 京	南中野中	内田 善人	6年3組	椿野 衣江 (真栄中)	斎藤 啓代 (小樽向陽中)	東 京	南中野中	牧井 直文
京 都	深草中	喜田 健嗣				大 阪	東淀中	板本 宏
大 阪	深井中央中	伊藤 慶孝	2 階 理科室	中西 毅 (向陵中)	安藤 桃子 (手稲中)	北海道	顧問	石谷 正美
北海道	遠矢中	更科 結希				北海道	道研究所	中島 健朗
秋 田	仁賀保高	黒木 健	4 階 4年2組	中山 龍雄 (星置中)	金子 睦 (中央中)	山 梨	須玉中	廣野 晃
大 阪	三島高	八木 透蒼				東 京	武蔵野美術大	三澤 一実
山 梨	高根清里小	白井 恭子	2 階 図工室	堀口 基一 (附属小)	菊地 惟史 (白楊小)	和歌山	和歌山大	永守 基樹
奈 良	奈良女子大附属小	大野木位行				北海道	道教大旭川	南部 正人
北海道	千歳桜木小	庄子 広美	2 階 3年1組	今谷 幸 (八軒北小)	中 奈津子 (南の沢小)	大 阪	長吉南小	長谷川辰夫
東 京	愛日小	平田 耕介				北海道	道教大旭川	名塚 英昭
滋 賀	瀬田中	伊庭 照実	4 階 6年1組	安田 仁昭 (平岸中)	豊田 ゆき (屯田北中)	東 京	五本木小	鈴木 陽子
北海道	附属釧路中	花輪 大輔				佐 賀	開成小	宮崎 祐治
北海道	附属釧路中	花輪 大輔				北海道	道教大釧路	佐々木 幸
北海道	附属釧路中	花輪 大輔				北海道	北斗中	山崎 正明

講評者プロフィール



文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程課調査官

岡田 京子 おかだ きょうこ

・東京都内の小学校教諭、主任教諭を経て現職



文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程課調査官

東良 雅人 ひがしら まさひと

・京都市立中学校美術教諭、京都市教育委員会指導部学校指導課指導主事を
経て現職。



千葉県聖徳大学 教授 芸術学博士

奥村 高明 おくむら たかあき

・宮崎県内の小中学校、附属学校の教諭、県立美術館の学芸員を経て、文部
科学省教科調査官、国立教育政策研究所教育課程調査官の後、現職。
「子どもの絵の見方」東洋館（2010）「美術館活用術」美術出版社（2011予定）
など著書論文多数。



岡山県環太平洋大学 次世代教育学部学級経営学科 教授

村上 尚徳 むらかみ ひさのり

・岡山市公立中学校教諭、岡山県教育庁指導課指導主事を経て、文部科学省
教科調査官、国立教育政策研究所教育課程調査官の後、現職。

展示イベント

～全国図画工作・美術教育研究大会 in 北海道 開催記念展覧会～

「子どもアート展2011」 ～幼児から高校生まで～

子どもたちの
「あったがい」作品を
展示しています。

道新ぎゃらリー会場 会期：7月28日(木)～8月2日(火) 10:00～19:00 (最終日17:00)

幼児から高校生までの作品と図工・美術教育を通じて子どもを育てている団体の活動の様子
を展示しています。

会期：7月26日(火)～7月29日(金) 9:00～17:00

市役所 1階ロビー会場

札幌市中央区の小学校に通う小学生の作品を展示しています。

～札幌市教育研究推進事業小学校図画工作部中央区子ども造形展共催～

市民ホール会場 会期：7月28日(木)のみ 9:00～11:00

北海道教育大学岩見沢校の学生による市内小学校6校のキャラクターの展示や北海道各地の
造形教育活動を紹介するパネル展示を行っています。

研究の概要

研究主題

こどもの扉

みらいの扉

教師の扉



北海道造形教育連盟の研究

1 造形教育が担う今日的な役割

北海道美唄市出身の彫刻家安田侃氏は、北海道新聞で次のように述べています。

ものづくりは大量生産から、手づくりが見直される時代に入るとでしょう。安価で便利なものを世界中が追いかけてきたが、それが変わる。なぜなら21世紀は知識ではなく、感性の時代だからです。

(北海道新聞 朝刊 2009/7/12)

今日的な
教育課題
から



子どもの心



大人の目



教育の中の
造形を
見つめ直す

金融という仮想の世界で起こった危機が実体経済にも世界規模で影響を及ぼし、子どもの未来が先の見えない混沌の中に包まれています。また、一刻の猶予もならない地球環境の問題に対する意識が世界規模で高まりつつあることも相まって、大量生産大量消費に代表されるグローバルスタンダードという価値観が終焉を迎えようとしています。これからは、未来を見据えた新しい価値を、他を基準にするのではなく自らの感性を信じて創り出していく力こそが、混沌を切り拓く生きる力となっていくであろうと考えます。

しかしながら、ベネッセの調査では、小学生の40%が、中学生では65%の子どもが「自分について自信がない」と答えている現実があります(第2回子ども生活実態基本調査 2009)。学力低下が社会の関心を集める中、学びの主体者であり未来の主体者である子どもの「心」に目を向けていくことを、私たちは大切にしていける必要があります。造形教育の担う役割には大きなものがあると考えます。

また、読売新聞の世論調査「日本の教育への評価」では、「教育を受ける機会を平等に保障してきた」「基礎的な学力を身に付けさせてきた」と思う人が70%に上るのに対し、「子ども一人一人の個性や才能を伸ばしてきた」と思う人は30%を切るという厳しい結果が出ています(読売新聞朝刊2008/12/26)。私たちは今一度、子どもを主語とした文脈の中で、「学び」としての造形教育の存在意義を考える必要があるのではないのでしょうか。

図工・美術は資質の教科と言われます。それは、多くの教科では子どもが、先人が長い年月を経て積み上げてきた文明の中から自分にとっての価値を見出すことを主な目的としている。図工・美術は、子ども自身が学びを通して自分にとっての意味を創り出していくことが目的とされているからです。つまり、学ぶ本質は子どもの側に存在するのです。小学校学習指導要領の「つくり出す喜び」は、単にものをつくることを指しているのではなく、「自分にとっての意味を創り出す」ことを示していることとらえることができます。それは、鑑賞の活動であっても創造的な活動であり、つくり出す喜びにつながっているということからも明らかです。私たち造形教育に携わる者は、子どもの前に立ち、対話を重ねることや共感することをより大切にすべきです。子どもに寄り添いながら子どもの心を育てることを常に意識する必要があると考えます。

2 北海道造形教育連盟の研究主題

“わたしを創る”

～自立と共生の造形教育をめざして～

“わたしを 創る” とは？

この北海道造形教育連盟の研究主題“わたしを創る”は、ネットワーク部と連携しネットワーク会議やメーリングリストで議論を重ね生まれたものです。このような形で研究主題が生み出されたことは、60年に及ぶ北海道造形教育連盟の歴史の中で、今回が初めての試みでした。

これまで同様、副主題は設定しません。それは、各地区サークルの研究主題が、道の研究主題を具現化していく、それにあたるものと考えているからです。

- ・研究内容1 『めざす「自立した造形活動」とは』
- ・研究内容2 『めざす「造形活動における共生の姿」とは』

各地区サークルの独自性のある取組から、多面的に検証されていくことを期待します。

「造形活動を通して自分で意味を創り出したり美意識を広げたりすることが、自分を豊かにし新しい自分に気付くことにつながる＝自己創造感」ということは、これまでの北海道造形教育連盟の研究で明らかになり、共通理解されてきているところです。今次の研究主題では、この成果を“わたしを創る”という言葉に集約しているのです。

安田侃氏は北海道新聞の中で、自身の作品づくりについて次のように述べています。

40年間、イタリアで彫刻をつくっていますが、作品の原風景は北海道にあります。一晩で1メートルも積もる雪、白い地平線。子どものころ、美瑛で見たものは、美しいけど、恐怖が入り交じった荘厳な光景でした。そこに彫刻を置いたとき、たえられるか、雪が降ることにより美しくなるか。それを彫刻制作の基準にし、頑張ってきたつもりです。
(北海道新聞 朝刊 2009/7/12)

安田氏の価値感や美意識は、誰に教わったのでもなく自分の様々な感覚を働かせ感性で感じとったものだからこそ、強く記憶に残り自身の作品づくりを支えているのでしょう。そして、その原風景に作品が置かれるイメージは、北海道の冬を知っている者なら誰もが容易に思い浮かべることができ、共感できるものです。

自分にとって意味あるものを創り出す喜びを味わうために働く感性は、“わたし”の中のみで完結する内部能力ではなく、他とつながり合ってこそ生きて働く力となっていくと考えます。本研究では、“わたし”にとっての意味が他と関わりをもつことによって、価値として共有化されていくことにも目を向けていきたいと思えます。

3 研究内容1

めざす「自立した造形活動」とは

感性を働かせ自ら意味を創る

では、どのような学びが保障されていくとき、子どもは“わたし”を創ることができるのでしょうか。それは、自らの『やりたい』を生み、自分の『やりかた』で表したり感じたりする学びであると考えます。その学びの中で感性を働かせながら生み出したものが自分にとっての意味であり、自分で意味を創り出す学びであると考えます。その自己実現に向かう意志を“わたし”にとらえ、“わたし”が生き生きと輝く学びを「自立」した学びと位置付けます。

子ども理解をより深める造形教育

子どもの感じ方や見方はその全てが受け入れられる必要があります。それは、図工・美術は資質の教科であり、それを否定することはその子自身を否定することになるからです。子ども理解を深めるためには、発達特性を知ることが基盤になってきます。その上で、一人一人の感じ方や表し方の背景を知ることが、より子ども理解を確かなものにつな갑니다。造形活動を通して子どもは“わたし”を創り、造形活動を通して教師は子ども理解を深める。その関係が、造形教育における望ましい授業像と考えます。

4 研究内容2

めざす「造形活動における共生の姿」とは

自己理解から他者理解へ

“わたし”は、「自立」した学びの空間と時間を共有する仲間からの価値付けによる、あたたかい学びの中で創られていくと考えます。このあたたかい学びを、一人一人の「自立」した学びが響き合う「共生」の学びと位置付けます。そして、学校のみではなく「地域・社会」が自立をうながしたり、“わたし”を価値付けたり、また、「地域・社会」に向かっても創造性を発揮し自己実現していくことができると考えるのです。

子どもの「あいだ」を見る

基本的に個の追求活動となる造形活動では、自立が成立した学びであっても一見して「あいだ」が空いていて、お互いに何かかわりも存在しないように見えます。しかし、子どもは「あいだ」を媒介にしてコミュニケーションをし、相互の確認をしていく共通の基底となっていると考えます。本当にかかわりが存在しないのか一方向的なかかわりなのか、双方向的なかかわりなのかお互いの違いを認め合いながらさらなるや価値を生み出しているのか。“わたし”が生み出した意味が、“わたし”と“わたし”のあいだで価値へと広がっていく共生の学びをよりよいものにしていくために、教師は子どもたちの「あいだ」を見取る目を養う必要があると考えます。

授業実践テーマについて

1 “わたし”を創るために

造形感覚 を育てる

私たちが、どのような材料を目の前の子どもにふさわしい題材として活動を展開するのか考えるところが、造形活動は食事と似ていると思います。そこで、感性が育っていくことを食事に例えて考えてみることにします。どのような食事をとると私たちがめざす子どもの姿、“わたし”になれるのでしょうか。

“感性と感覚のつながり”について北海道増毛町出身のフランス料理シェフ三國清三氏の言葉が想起されます。(スクスクのっぼくん～有限会社ルーティのインタビュー)

「味覚が育てば、感性が育ちます。舌には味蕾(みらい)という五味(甘、酸、苦、塩味、うま味)を感知する器官があるんですが、この味蕾から味が吸収されると脳が刺激されて、感性が研ぎすまされます。」(三國清三氏)

ここで言う「味覚」を造形活動の中の「造形感覚」と置き換えてみると、五味を感知する器官は、手や目、頭など考えることができます。そして、この五味は学習指導要領で示された四つの観点と結びつけて捉えることができ、道内の研究大会でも「育みたい力」として具体的に検討されてきました。

手と 目と 頭で

五味・甘味
・酸味
・苦味
・塩味
・旨味

四観点
・関心・意欲・態度
・発想や構想の能力
・創造的な技能
・鑑賞の能力

「育みたい力」の例
・楽しむ・追求する・つなげる
・広がる・深める・見通す
・比べる・選び、決める、
バランスをとる・使う
・感じとる・自己理解・他者理解

味蕾から五味を感知すると味覚感性が研ぎすまされるのと同様に、「育みたい力」の資質・能力が高まることで造形の感覚も高まっていくと考えられます。それでは、“わたし”を創ることは食事ではどのように考えられるのでしょうか。

作り手(教師)は食べる人(子ども)のことを思い浮かべ、どの食材(素材・材料)を使うか、どのように料理(題材)するか考えます。誰もがおいしい(できた! やった!)と思いたい、そして思わせたいと願っています。ここで、おいしいと感じるのは、大人ではなくその料理を食べる子ども自身であることを忘れてはなりません。また、人間にはおなかを満たすだけでなく栄養をよく考えた「あったかい!」食事が必要となります。よりおいしく思えるようにするためのひと手間として、価値の自覚や気付きが必要となります。

食べた人の心があったかくなり、「ねえ、これおいしいよ!」とおいしさを周りの人に伝えたい。「あったかい!」食事が食べた人を「あったかい!」心に、「あったかい!」人間になっていくと考えるからです。食事はつくった側も、食べる側もそして、周りで見ている人も「あったかい!」気持ちになるものが理想であると考えます。

2 授業実践テーマについて

「あったかい！」を つなげ合う造形活動

授業実践
から
考える

やってみたい!

価値ある活動に

教師の価値付け

北海道造形教育連盟の研究主題『“わたし”を創る～自立と共生の造形教育をめざして～』を、札幌市造形教育連盟ではどのように授業（造形活動）で具現化していくのかを考えました。平成19年度から22年度まで4年間で幼稚園から中学校まで16本の授業公開を行い、私たちが大切にしたい造形活動を通して見えてくる子どもの姿を整理してきました。

小学校では、段ボールを組み合わせて教室を変身させていく授業を行いました。たくさんの段ボールとの出会いにより、「こんなことしてみたい!」と大喜ぶ子どもの姿が見られました。そこには、段ボールを吊るしたり組み合わせたりしながらつないでいこうとする時、手を差し伸べ、友達の活動を支えようとする姿がありました。時には、「倒れちゃうから、もう一つ付けようよ」とアドバイスをする姿がありました。友達と協力する姿から、「もっとやってみたい!」という思いがどんどん教室に広がり、「あったかい!」雰囲気になりました。

PMFと小学校5年生のコラボレーションの学習では、PMFの演奏を芸術の森のリハーサル室で聞くことから授業が始まりました。子どもたちは演奏を体全体で感じ、その感じたことを絵の具で表現する活動を行いました。迫力のある音や演奏者の体の動きなどからイメージを膨らませて、材料や用具を工夫して使い、表現していききました。最後に、自分たちの作品をPMFの演奏者に見てもらいました。感激した指揮者は作品をドイツのご自宅に持って帰ってくれました。他団体や社会のつながりから、子どもの活動をより価値のあるものにすることができたのです。



中学校では、粘土で手をつくるために手のポーズを考える授業を行いました。この学習では、子ども同士での交流を大切にしました。デジタル・カメラで自分の考えた手のポーズを友達に撮影してもらいながら、より自分の思いが表現されるようなポーズを友達と考えていくことが出来ました。友達からの価値付けで自信をもつ子どもの姿が見られました。教師が、活動を評価していくことで、子どもたちはさらに友達とかかわろうとする姿となりました。

私たちは一人一人の思いを大切に造形活動を支え、そして、そこにいるみんなが「あったかい!」思いになるために、その時々適切な指導と必要な支援は何かを考えて実践し『あったかい!』をつなげ合う造形活動をめざす研究の体制を構築しました。

3 視点について

「心の発動」とは

子どもの
心が動く

子どもの心が「やってみたい!」「すごいな!」と動くような題材との出会いを大切にします。

- 常に子どもの心が動き続けるような題材の存り方。
- 自らが作り出す、作り続けるような題材の構成。
- 自ら心が動き出し、その後もずっと「もっと……」が生まれる展開の工夫。
- 心を揺り動かすような投げかけ。
- 子どもの心が動き続けるような教師の受け止め、受け入れ、認める姿勢。



「感動の共有」とは

感動のある
活動を

造形活動を通して、満足感や達成感を味わうことを大切にしていきます。そうすることで、子どもは聞いて欲しい、見て欲しいという気持ちになり、自発的に他者とかがわるようになります。

- 友達に伝えたいような気持ちと伝える活動
- 友達と伝え合うことが出来る環境づくり
- 感動を共有する時間の保障
- 感動を共有するための教師のかかわり
- 教師も積極的にかかわる場の設定



これらをつなげ合うのは、子どもです。

友達や教師などと、一つの空間で感動を共有することを目指します。共有することで「あったかい!」が教室の中でつながっていきます。そこで大切なのは、子どもたち自身がつなげ合っていくことです。

この2つの視点をもとに授業をつくり、子どもたちがより達成感を味わえる造形活動をめざしています。

また、自分たちで自分の造形活動に価値を見だし、その活動をかけがえのないものに変えていくことが大切です。そのことにより、自分の変容に気づき、自分に自信をもつことができます。そうすることで、周りの様子にも目がいくようになり、自分の周りの活動にも「あったかい!」まなざしをそそぐことができるようになり、「あったかい!」心をもった人になると考えます。

研究主題と3つの扉

扉という 考え方

これまでの授業研究では、どちらかというところ「つくる・みる」を内容面で捉え、学年の発達に合わせて活動の内容、つまり題材を考えることが多くありました。教材を研究し、教科の目標に準拠した題材を設定し、授業を通して子どもたちの活動を評価し、授業改善を行うといった内容優先の発想です。

しかし、今日、授業を教師側（題材側）のみの一方向から見るのではなく、子ども側（資質や能力を発揮している状態、活動の過程）から見ていくことが重視されています。授業づくり、授業評価の視点として再確認していく上では、「何を何でつくるか」という個の活動を見つめるだけでなく、「どのように思い、どのように自他の思いを交わしながら自分の形や色、美しさや面白さについての見方や考え方をつくり出していたのか」という集団でのかかわり合いと表現や鑑賞の活動の過程との関係をしっかり見つめることから、目指すべく授業像を共有していきたいと考えました。

つまり、どの校種、どの領域の授業をとっても、子どもたち同士のあたたかなかかわり合いがあり、自他の表現と鑑賞の活動がつながり合い、教師と子どもたちの心のふれあいを感じる授業を提案していくこととなります。

基本的な 考え方

これまでもいろいろな議論を重ねて来ましたが、扉は、もともと授業改善の視点であり、私たちが議論の中心として話し合いの柱にしてきたものです。また、これまでの造形教育を振り返り、後世へ伝えていく図工・美術の不易として確認する意味ももっていました。時代の要請としての「旬な話題」にもふれつつ、造形を語る仲間の、造形を学ぶ仲間の「最新」でもありました。

そこで、本大会の扉を設定するにあたり、今一度図工・美術における基本に立ち返り、「造形教育はなぜ大切なのか？」「造形教育が担う人づくりの要素とは何か？」を再考してみることにしました。

子どもたちは小さな頃から造形的な表現の活動に親しみ、自分と外界をつなぐ関係性を学んでいきます。言葉を話せないうちから、なぐり描きや見立てなどをしながら、自分の知っていることやものを表現していきます。表しながら意味が生まれ、またその意味から表したいことやものを捉え直していくのです。これらの成長には、自分のまわりにいる他者からの反応も大きな意味ももっています。共感的に微笑んでくれたり、驚いてくれたり、また時には、意味を付け加えてくれたりもするでしょう。このように自分の表現したことを他者が受け取り、また受け取ったことを他者へつなげる、というような人と人とのつながりの仕組みの中で相互理解や自己主張、多様な価値の理解をしていきます。つまり、造形的な表現や鑑賞の活動を通して、個人の造形的な価値を創りながら、他者とも一体的に相互の価値を創り続けるわけです。言い換えるなら、人間関係を築き合う力を育てているとも言えるでしょう。また、昨今話題の生きる力につながる学びであるとも言えます。このような「図工・美術が人の心をつくり、育む」といった基本を扉につないでいきます。

大会では、授業も提言も、総力を挙げて私たちチーム北海道の考える人づくりの造形教育を提案しながら、これからの図工・美術につながる「未

わかり
やすい
視点

“わたし”を
創る授業を
扉から

来へ残したい図工・美術宣言」を発信していくことにもなります。これからの未来へ受け継がれ、大切にされていくべき内容を参会のみなさんと共有し、共通理解がはかれたらすばらしいと考えました。

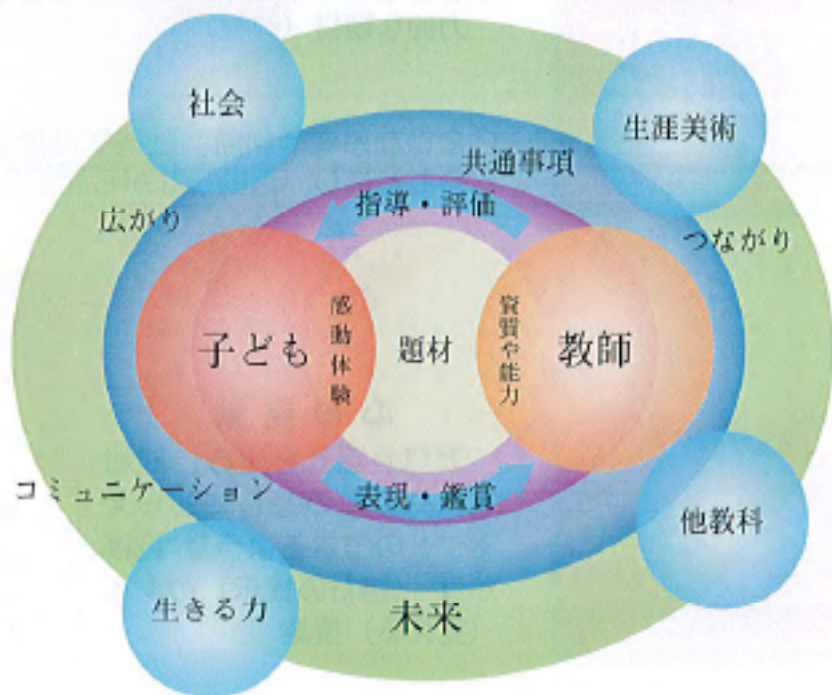
また、扉を授業づくりや提言のテーマと捉えると、どの授業者にもわかりやすく、取り組みやすいものでなくてはならないと考えました。どの校種でも、どの領域でも、自他の授業をどこかの扉から捉え直し、また逆にどの扉からでも授業を位置付けることができるということになります。

各扉はあくまでも授業をつくり、見直す際の重点であり、その重点項目以外は全く関わりがないという訳ではありません。ですからそれぞれの授業の主張で大切な要素の中から明確に重点化を図った視点（＝扉の主張）を分かりやすく伝えていかななくてはならないと考えます。

どの扉からでも、授業をみつめ、捉え直し、よりよく改善していくことができるので、自他の授業を「扉」から分析的に見てみることで、より具体的な改善点が見えてきます。この授業の改善点は、一つの授業をよりよくするための成果と課題といった性格だけでなく、授業づくり全体、図工、美術全体にとっての重点課題として確認される視点となると考えます。

本大会の“わたし”を創る造形教育の視点は「自立」と「共生」です。そして、この自立と共生を具体的に可視化するのが、扉です。また、扉は、自分自身の授業観や子ども観、指導観、評価観などの教師としての見方や考え方を問い直す場にもなるわけです。様々な都道府県大会に参会したことがあるであろう、多くの参会者にも、今一度自分の授業観を見つめ直し、この北海道の地でこれからの図工・美術の未来を見つめた議論を楽しんで欲しいと願っています。もちろん、私たち北海道の仲間も、あたたかな人づくりをめざす北海道の図工・美術を存分に提案したいと思えます。

『あたたかい！』をつなげ合う扉の構造図



【研究主題】 "わたし"を創る ～ 自立と共生をめざして ～
 【授業実践テーマ】 「あったかい！」をつなげ合う造形活動

扉の主題・基本的な考え方

【扉の主題】

子どもの感性を引き出せる教材化・題材構成になっているかを
 子どもの視点から問い直す

子どもの図工や美術との対峙は、カリキュラムでも指導案に直接接するのではなく、造形活動の中で、形であり、色（色彩）であり、素材、材料です。この扉では感性を刺激し、ふるわせるそれらとの"出会い"や"かかわり"に眼を向けること、それが基本であり、原点と捉え、子どもに寄り添い、同じ方向を見て歩むことを大切にしていきます。

扉で大切にしたい題材のイメージ

- 子どもの「やってみたい」を引き起こす感動体験のある魅力的な題材（教材）
- 多様な思考や判断、試行を可能にする形・色（彩）・材料をもとにし、活動しながら発想がふくらむ題材構成

授業の視点

心の発動

発見や感動を生み、題材を自分のものとしてとらえることのできるような"投げかけ"（題材の提示）のある（見える）授業

感動の共有

発見や感動を認め合い、自他を高めるための、子ども同士、子どもと教師のつながり（かかわり）を生む（見える）授業



①中川 治
伏見小学校 1年
「とんとん広がる みんなの色」



②濱口 裕子
緑丘小学校 4年
「くるくるカラフル」



⑪高橋 梓
札幌幼稚園 年長
「土の中たんけんたい」



扉責任者 ⑫水野 一英
宮の森中学校



扉責任者 ⑬宮田 珠世
円山小学校 3年
「カラフル ワンダー ホール」



⑫藤岡 真弓
手稲西小学校 4年
「思いとび出して」



⑭多田 絵美
西岡中学校 2年
「感じて語ろう」



⑮細川亜矢子
米里中学校 2年
「My Life+ ～土に思いをこめて～」

授業者 中川 治
伏見小学校 1年1組

題材について

○色水シャポンを飛ばしてできる模様の形や色を楽しむ〈A表現(1)〉

色水シャポン玉が紙の上でパッとほじけた瞬間、目の前に表れるきれいな色やまるい形の重なり。色水シャポンを飛ばす行為に浸りながら、「きれい!」「おもしろい!」と感じる心もふくらんでいきます。

と

ん

と

ん

広がる

いろいろな
色水シャポン玉
をとばそう!

おもしろい
模様がたくさん
できたよ!

みんなの色

題材について

○巻いた色紙の面白さ・美しさから広がるイメージ（A表現（2））

たくさんのカラフルな色紙を巻いていく中で、“くるくるしている形の面白さ”や“色の組み合わせの美しさ”を感じ取っていきます。その美的感動から豊かに広がるイメージを「くるくる」で表現していきます。

この色の組み合わせ
きれいだな

くるくるカラフル

もっとここに
つけたしたいなあ

それ、いいアイデア！

授業者 高橋 梓
札幌幼稚園 年長組

土の中



ワクワク
たんけん!!



題材について

○土の中に広がる楽しいお話の世界
〈表現〉

ローラー遊びで描く土の中の世界。色とりどりの線が交差し広がるのを見ながら、「ここは～にしよう!」「ぼくのおうちにきてもいいよ。」とお話の世界を広げ、イメージしたものを楽しく描いていきます。

たんけん

けん

けん

たい

たい

なかまが
ふえるね☆



どんな
せかいかな?



思

い

出

し

て

と

び

もっと「わっ！」っていう
感じにしたいな**題材について**○とび出すしくみを生かして「わっ！」をつくり出す
〈A表現(2)〉

「とび出すしくみで“わっ！”とを感じるようなものをつくろう」というテーマに向かい、自分なりの“わっ！”を追究していきます。何度もしくみを試しながら思いを膨らませ、工夫を重ねていこうとする題材です。

いろいろな「わっ！」が
あるね！

授業者 宮田 珠世
円山小学校 3年2組

カラフル ワンダー ホール

エントランスホールも
わくわくする感じに
変えてしまおう！

ここから見て！
とてもきれい
だよ！

題材について

○透けて見える形・色を飾って、
わくわくする空間へ！〈A表現(1)〉

たくさんの透けて見える形や色で飾られたポリシートを使い、色々な場所を変えていきます。その場所がどんどん変化していく面白さや、透けて見える形・色が重なったときの美しさを感じながらイメージを広げ、わくわくいっぱいに取り組みます。

感じて語ろう

いにしえの美

題材について

○いにしえの美との出会い（鑑賞（1））

くわび・さび、かぶく、みやび、いきり四つの美意識との出会いをもとに、現代にも通じるそれぞれのよさや美しさ、価値などを、生徒自らが見いだしていきます。

なるほど、そういう見方もあるね。

私はこう思うよ。

授業者 細川 亜矢子
米里中学校 2年2組

題材について

○自分の日常生活に「美」を+（プラス）〈A表現（2）〉

「花に合う器」をテーマに、工夫を重ねながら、“自分なりの形”を発見していきます。そんな“つくる楽しさ”と“使う喜び”に満ちた題材です。

MY LIFE + PLUS

～土に思いをこめて～

「どんな形にしよう」

「これが合いそう」

「早くつかってみたい」



【研究主題】 "わたし"を創る ～ 自立と共生をめざして ～
【授業実践テーマ】 「あったかい！」をつなげ合う造形活動

扉の主題・基本的な考え方

【扉の主題】

「社会とのつながり」や「授業の広がり」の可能性を通じて未来につながる子どもの生きる力を育む造形教育を問い直す

「みらいへのまなざし」では、「いま」「ここ」にいる子どもたちの未来の姿につながる造形教育を映し出します。つまり、教師は、「いま」「ここ」にいる子どもたちに、これまで以上にかかわり合いや認め合いが生まれる場を大切にすることが求められます。

「みらいへのまなざし」の扉では作品や他者、社会とのかかわりから子どもが自己肯定感を感じ、教科の枠を超えた「生きる力」、そして、豊かな人間性を大切に「造形教育」の有用性について題材を通して考えていきます。

扉で大切にしたい題材のイメージ

○造形活動を通し、子どもの未来につながる「生きる力」（よさや美しさを感じ取る力や他者とのコミュニケーションの力、自己肯定感や共感性など）が発揮され確かに身に付く題材（教材）

○これまでの学校・教科・授業などの枠組みにとらわれずに、いわゆる「個」として「広がり」または「つながり」をもとに、「生きる力」が育まれる題材の構成

授業の視点

心の発動

感動の共有

- ・枠にとらわれない活動の展開や場の構成によってねらいに迫っていく授業
- ・個で完結するのではなく、他者とのかかわりで作品のよさや感じたことを自発的に共有し、新たな価値を発見していく授業



③柿本美奈子
伏見小学校 4年
「ぼく・わたしの心もよう」



④土門 俊介
梶西小学校 3年
「空 遊ぶ」



⑤祖父江 瞬
中の島小学校 6年
「きこう はなそう かんじよう」



扉責任者 荻下 栄一
藤野南小学校



扉責任者 石川 早苗
八軒東中学校



⑥寺林 陽子
あいの里東中学校 2年
「Peace Message Card」



⑩川内垂矢子
手稲中学校 2年
「おもいを言葉に～墨からの造形」

ぼく・わたしの心もよう

題材について

○「心ペーパー」でつながる「自分」と「友達」
〈A表現(2)〉

毎日変わるぼく・わたしの気持ちを「心もよう」として表した「心ペーパー」。

そんな自分の気持ちを抽象で表した「心ペーパー」づくりを通して、「自分」と「社会」とをつなぐ自己表現の方法やコミュニケーションの多様性を実感し、「自分」と「他者」とのつながりから他者を理解し共感しようとする態度を育むことを目指します。

「今日の自分は
こんな色だよ！」

「今日のきみは
こんな形なんだ！」

題材について

○生きる力〈A表現(1)〉

空という無限に広がるイメージをおもいっきり表現することは「自分の空」への愛着となる形、色のこだわりや思いの高まりへつながる。

○広がる・つながる

授業に写真を取り入れること、自分の作品をファインダーを通して見直すことができる。

自己肯定感の育成、満足する体験は心に大きな財産となる。

自分の空をつくろう！

友達の空と
つなげたいな

見たことのない
自分たちの空になったよ

「空 遊ぶ」

“自分の空”をつくって
“自分の空”であそんで



こんな空を
のこせないかな

空のパネルを
立ててみると
空の中みたい

あるくと
空を飛んでる
みたいだな

授業者 祖父江 瞬
中の島小学校 6年2組

きこう はなそう かんじょう

～彫刻家 本郷新の世界～



題材について

○「本郷 新」の彫刻を通して
「社会」につながる「自分」へ〈B鑑賞 (1)〉

札幌彫刻美術館に展示している彫刻家「本郷 新」の作品から感じたことをパンフレットとして再構成しながら「社会」に「発信」する活動を通して、自ら造形・鑑賞活動を進めていく子どもを育むことを目指します。



この彫刻から
こんな思いを
感じるよ



自分だったら
この作品の
題名を・・・



「みらいへのまなざし×平和」
平和とは何か
現在、世界は平和なのか
未来の中でわたしは
わたしの中で未来は
未来の平和は誰が創るのか
未来のわたしは誰が創るのか
“わたし”を創る

PEACE MESSAGE CARD

自分の考える
平和への願いを
こんなデザインで

題材について

○未来へとつながる「自分の価値観」を
「つくる・あらわす・つたえる」〈A表現(2)〉

「社会」とのつながりや「道徳」とのつながりから感じた平和に対する願いを、モダンテクニックなど様々な技法を用いてメッセージカードに表現し、自分の価値観として「社会」に発信していきます。

授業者 川内 亜矢子
手稲中学校 2年6組

おもいを言葉に～墨からの造形

題材について

○過去、現在、そして未来へとつながる
自分を実感（A表現（2））

自分のおもいを文字にして筆で描く題材に毎年取り組むことを通して、その年々で変化する表現力や自己の内面を見つめ直し、過去から今、そして未来へとつながる自分自身の成長を実感することを目指します。

今の自分のおもいと
文字で表すと

伝統をみらいへ

大学生がやってくる

旅するムサビ in 札幌 featuring 岩教大

題材について

大学生が制作した作品をグループで鑑賞。学生と子どもたちの対話を通して作品を見る見方を学びます。(B鑑賞(1))

「この作品、何が描かれているかな？」

大学生がファシリテーターを務め、子どもと対話をしていきます。思い思いの感じ方を拾い上げていく中から、作品に対するイメージを広げていきます。作者も登場し子どもの疑問に答えます。言葉でのやりとりを通して言葉では表せないイメージの世界を広げていきます。また、表現の意図などにも気付かせていきます。



幌
西

ウズウズするような題材を

北海道 岩見沢市立岩見沢小学校 竹 田 睦 生



ひと・もの・ばしょ、とかかわりながら、思いめぐらす時、子どもは自然と自己を見つめ、これから（=未来）につながる自分像を紡ぎ出します。その心情が形や色となって表れた時、それが自分と他者をつなぐ媒体となり、さらに世界は広がりを見せます。

今回の提言では、自分とかかわりのある「もの」や「ばしょ」から発想し造形する活動。そして、つくり出した作品を使って他者と思いを交流する実践についてみなさんと学びを深めたく思います。子どもが「早くやりたい!」とウズウズするような題材を見つけましょう。

幌
西

さがす みつける つくりだす 子ども『あっ いいこと考えた!』

東京都 目黒区立碑小学校 内田佳代子 東京都 目黒区立向原小学校 上野千絵子



2010年12月開催した第49回東京都図画工作研究大会では、上記のテーマで、子どもたちの可能性を探ってきました。子どもが形や色、イメージ、もの、人、ことなどを通して感性を働かせ、自らの力で新しい自分や世界をつくりだそうとする姿に重ねています。思い付いたことを試し表しながら、自分で決めてつくりだす子どもたちの姿に、教師は、眼差しを向け、寄り添い、共感していきます。子どもたちは、「あっ いいこと考えた!」とつぶやきながら、自分の世界を更新し、未来へつなげていきます。

幌
西

地域とかかわり、いきいきと造形活動に挑む!

佐賀県 佐賀大学文化教育学部附属小学校 富 永 千 晶



今こそ造形教育の意義を地域社会に認識させたい!…そんな思いを強くもって、日々子どもたちと活動しています。

今回の提言では、アートの力で地域を元気にする「アートプロジェクト」の数々を紹介します。学校周辺の公園、商店街を舞台に子どもたちの造形活動が展開していく様は、感動の連続です。地域の人とタッグを組んで、形や色、材料の組み合わせ、機能等を話し合い、試行錯誤して表現していきます。本気がぶつかり合う中で起こる挫折やその後の成功は、子どもたちの自己肯定感を高めています。

静から動への感動を！～一枚の色紙が創り出すアニメーション～

幌
西

熊本県 熊本市立健軍小学校 星 子 聖 一



図画工作科では豊かに発想し、五感を十分に働かせ、様々な表現法の工夫・改善を図っていくことは大切です。情報化社会といわれる今日、子どもを取り巻く環境も進化・変化しています。自己表現のツールとして学校現場でも情報機器の活用が広がっています。

そこで、今回の提言では切り貼りした絵と、パソコンやスキャナーなどを学習のツールとして組み合わせ、子どもたちにとって興味・関心が深いアニメーションをつくることで、発想や構想、新たな表現活動の深化を図り実践化しました。

生徒も、教師も、学生も……みんなが学べる、みんながつながる～「空飛ぶムサビ」から得られたこと～

幌
西

北海道 江別市立江別第二中学校 井上 哲義 北海道 北広島市立大曲小学校 岩崎 愛彦



昨年6月に、石狩管内教育研究会図工美術部会で行った「旅するムサビ in 北海道」の報告です。「旅ムサビ」が初めて空を飛んで北海道まで来てくれました。また地元の大学の協力もあり、生徒にとっても授業者にとっても、参加者にとっても、そして個々の進行を担当した学生たちにとっても得るものが多い時間となりました。

授業者である井上が、この授業で明らかに変わってきた生徒たちの姿について、また岩崎が企画から今後の可能性等全体的な取組についてお話します。

自分らしく生き生きと表現する造形活動をめざして

幌
西

広島県 広島市立川内小学校 川 島 仁 氏



「自分らしく」とは、「自分の思いや願いを大切に」しながら自信をもち自分を表現できることであり、「生き生きと表現する」とは、子どもたちが「自らの資質や能力を存分に働かせながら、主体的に造形活動を楽しむ」ことであると考えています。このような実践を行うには、子どもの学習を適切に見取りながら目標の設定から指導・評価までの一連を指導者自身がふり返り、授業改善を図る必要があると考えます。子どもの自己実現をめざし「指導と評価の一体化」を図ることを、皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。

幌
西

学校・美術館・大学の連携を通して（そこから見えてきたもの）

北海道 旭川市立光陽中学校 吉野 法行



旭川では、造形教育を主軸とした「学校」「美術館」「大学」という三者の連携を推進しています。しかも、ピラミッド構造を築くことなく、三者が同等のトライアングルな関係を構築しつつあります。

今回の提言では、①全く異なった組織が、連携するにあたり直面すること、考えなくてはいけないこと、②連携していく意味③継続した連携を築くための組織、そして④具体的な取組などを柱として提言していきたいと思えます。全国で連携について悩んでいらっしゃる組織の皆さん、ぜひ来てください。

幌
西

互いの「主題」を共有するまで ～それぞれの「自画像」～

沖縄県 島尻郡八重瀬町立東風平中学校 二宮 陸生



生徒たちは、美術の時間に何を表現するのでしょうか。それは自分の心の中の喜びや悲しみ、希望、願いなどさまざまな思いです。そして、それらは生徒個々の言葉にできない切実な「主題」といえるでしょう。

「主題」は対象に向かいつつ描き、描きつつ向かううちに形となります。その形に鑑賞者は「主題」と共に「創造の喜び」を共有するはずで。

皆様もすでに取り組みされてきた「自画像」の授業ですが、今回は画家の作品鑑賞から始め、生徒自身が自らの「主題」を意識し共有していくまでの過程を紹介できたらと思います。ご助言よろしくお願ひします。

円
山

つながる、こころになる～ICTを活用したイメージの共有～（小中連携で大切なこと）

大阪府 堺市立深井中央中学校 伊藤 慶孝



小中連携を知れば知るほど、「すべての美術を学ぶ子どものために、必要なことなんだ。」と感じます。しかし一方で、小中連携の推進状況は、都道府県によってまちまちです。県レベルで推進し、一貫システムが整っている地域もあれば、連携のため学校が無理をしなければならない地域もあります。だからこそ、大切なのはハードではなく、目の前の子どものために作るソフトだと感じます。今回の提言では、『目の前の子ども』『自分が肌で感じる課題』『地域（堺市）の現状』を念頭に置いて計画・実践した授業をもとに、これからの小中連携を考えていきます。

地域の美術館施設と学校との連携の中から生まれた授業の広がり ～異なる連携方法で作った2つの授業、本物を自分たちの言葉で語る～

北海道 釧路町立遠矢中学校 更科結希



美術館と学校の連携はなかなか難しいものです。しかし、美術館施設の扱う「本物」と子どもたちが出会ったとき、印刷された物からは感じ取れない大切なものを見つけ出します。

今回の提言では、釧路市内にある2つの美術館施設、釧路市立美術館と連携した実践事例、北海道立釧路芸術館と北海道教育大学釧路校との連携で生まれた実践事例を紹介いたします。

未来につながる力をどのように育てていくことが大切か、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

美術教師の「学力向上」と「学び合い」

秋田県 秋田県立仁賀保高等学校 黒木健



『未来へとつながる造形教育』を確かなものとするためには、「美術教師（作家系）視座」で行われている授業を「生徒視座」に変換することが鍵であると考えています。

例えば、レストランでの食事には確かに魅力がありますが、「日常の食事」にこそ目を向けていきたいのです。

「普通のものやこと」を軸に、美術教師自身の学力（関心・意欲・態度、思考力、判断力）を向上させ学び合うことが、求められる確かな授業につながると思うのです。そんな題材も提案いたします。

対話による制作作品の相互鑑賞と絵画確立

大阪府 大阪府立三島高等学校 八木遼蒼



青年期の課題とされる自己の確立について、高校の美術教育を通しての絵画制作がどのように関わり、つながるかを作品の制作過程の内容を検討し、起こりうる課題と問題点を踏まえ考察をおこなってきました。本提言では、絵画制作の実践事例を提示し、高校生が自分の思いやイメージを引きだし膨らませ、主体的に作品と向き合う背景を制作サイクル(構想から制作・合評・美術展の展示・鑑賞)から明らかにし、主に中間合評会の生徒同士の対話による制作途中作品の相互鑑賞を通して、豊かな絵画確立と他者との交流から生まれる有用性を検証していきます。

【研究主題】 "わたし"を創る ～ 自立と共生をめざして ～
【授業実践テーマ】 「あったかい！」をつなげ合う造形活動

扉の主題・基本的な考え方

【扉の主題】

子どもたちの資質や能力をとらえ、
育む力を明確にした教師のかかわりを問い直す

「教師のまなざし」の扉では、子どもが"わたし"の形や色を創り出し、美しさを求めることができる指導の在り方、子どもの姿の中に造形的な力の働きをとらえ、新たな価値を見いだす評価の在り方に視点をおいて図工・美術の授業をつくり、提案することで、豊かな人間性を育む「あったかい教師の仕事」を一つの授業を通して見つめていきます。

扉で大切にしたい題材のイメージ

- 育みたい「資質や能力」を明確に設定し、それらを実現する教材化を通じて、子どもが資質や能力を発揮できる働きかけや受け止めができる題材
- 造形的な学びを子どもの姿の中からとらえ、題材を通して育まれる資質や能力について、授業過程と子どもの心の動きや変容を大切に見つめる評価のある題材

授業の視点

心の発動

- ・子どもに近づき、寄り添い、支える働きかけがあり、また、ねらいが明確で、ねらいに迫るための手立てが見える授業
- ・子どもの心をふるわせ、意欲を高める手立てがある授業

感動の共有

- ・子どものよさを発見し、共に感動する評価活動がある授業
- ・過程をとらえ、共に学ぶ仲間との心のつながりを大切にしたい場の構成がある授業



⑦三浦真奈美
いなづみ幼稚園 年長
「にじいろのもりであそぼう」



⑧吉伊 宏子
幌西小学校 2年
「にじいろのもりであそぼう」



⑨則友 冴子
札幌北中学校 1年
「大切な相手へ～色のおもてなし～」



扉責任者 堀口 基一
北海道教育大附属札幌小学校



扉責任者 大高 雅子
柏中学校



⑩齋藤 周
札幌旭丘高等学校
「高等学校美術科のあり方と授業」



⑬橋本 祥子
あやめ野小学校 3年
「もくも トントン わーくわく」



⑭矢野 宜利
百合が原小学校 3年
「ぐるぐるワールド」



⑯市川 雅基
屯田北中学校 2年
「みてみて発見！日本の美～仏像編」

授業者 三浦 真奈美
いなづみ幼稚園 年長児

にじいろのも

ともだちと
あそびの中から

いなづみ幼稚園の園児と

色が
心がつながる

題材について

○お気に入りの色水で飾って、一緒に虹色の森で遊ぼう！
(A表現 (1))

幼稚園の子どもたちと小学校2年生の子どもたちが
出会い、一緒に色水づくりや森を飾る楽しさを全身
で味わいます。

チョークで色水をつくってならべるのも楽しいよ！

もりがどんどんにじ色になってきたよ！

黄色と青のチョークをまぜたら、どんな色になるかな？

もう少し木の高い所にふくろをかけたいな。

りであそぼう

幌西小学校の2年生がつくる

どんな色を
どんなところに
ならべてみると
つるしてみると

こうさいのもりを
にじ色にしよう！

たくさん並べたら、
とってもきれいだよ

木にかけたり、
ひもにかけたり、
たのしいね



色水を入れた
ふくろを木にどんどん
かけていこう！



授業者 則友 冴子
札幌北中学校 1年2組

大切な相手へ 色のおもてなし

あの人にぴったりなのはどんな色？喜んでもらえるかな？

自分だけの色の器でおもてなし…あなただったら、どんな色？

あの子のイメージは…

どんな色が好きだろう？

あなたらしいね

ぴったりだ！

想いを込めて

題材について

○色の組み合わせで伝わる思いがある。色の世界って奥が深い！（A表現（2））

大切な相手へ、テーブルカラーコーディネートで自分だけのおもてなしに挑戦します。

色の感じに心を重ねて発信し、伝えあう学びを。

自分の世界観と人生観が見えてくる

高等学校美術科のあり方と授業

札幌市の実践から～



また絵が描きたい

日常に生かされることってなに

“こうしたい”という強い思いは技術を越えるね



題材について

○高校の美術ってどんなことしてるの？〈表現・鑑賞〉

高校で実践している題材を生徒の作品を通して紹介します。

高等学校美術～位置づけ
札幌市の高校の実践～まなざし

授業者 橋本 祥子
あやめ野小学校 3年2組

トントン
打つの
楽しいね！

もっと
たくさん
打ちたいな

もくもく

トントン

わ～くわく

仲間が
いっぱい！

どんな
形が
できるかな？

題材について

○「釘うち」の楽しさを味わいながら、枝木を变身させちゃおう！
〈A表現 (2)〉

たくさんの釘を枝木に「トントン」楽しく打ちながら、
材料を变身させる喜びに心が「わ～くわく」する題材です。

題材について

〇ぐるぐるの紙が作り出す不思議な空間へようこそ！
〈A表現（2）〉

上からも下からもぐるぐる伸びて、つながって、
私の世界がふくらんでいきます。

ぐるぐるワールド

授業者 市川 雅基
屯田北中学校 2年4組

みて！観て！発見！

日本の美

～仏像編

「よくみて！ここが、ほら…」

「こんな見方もあるんじゃない？」

「かたちの秘密、だれかに教えたい！」

「“ブツゾウ”ってけっこうおもしろい！」

「ここのかたちが、きれいだね！」

感じて、思い描いて
もっと知りたくなる。

「ずっと私たちの心の中に
あり続けるもの。
感じてみよう！
みつけてみよう！」

日本の美しさ、発見！

日本の心を見つめ、

感じて深め合う学びを…。

題材について

○仏像の特徴大発見！もっと仏像のことが知りたくなったよ（B鑑賞（1））

いろいろな仏像を彫刻作品として鑑賞してみます。表情、服装、ポーズ…今まで気付かなかった新しい発見で仏像を身近に感じます。



幌
西

『カラーパフォーマンス』色は力。カラーパワーを身にまとう。色から生まれる 美的感動パフォーマンス。

北海道 学校法人 坂本学園 大地太陽幼稚園 星 恵



ファンタジーカラー。新芽が春風によって奏でるハーモニー色。自然の色。カラフルなもの色。
 私たちは生活の中で、色をえらんでならべて、デザインしている。心に感じる色と、目に見える色。色のもつ力の研究。
 もののもつイメージと色のパワーから、つくる・かざる・おどる・うたう。大人も子どもも、カラーを身にまとい、パワーを発揮する。
 一人一人の色。ここに集うみんなが一つに。Happy!
 心に残るとびきりの色。美的感動あふれる大地太陽のくらし。

幌
西

みんなちがってみんないい～個々の個性を伸ばしていこう～

北海道 札幌市 英伸幼稚学院 若 杉 由 恵



楽しいと感じる体験やつらいけどがんばった体験を通して感動や喜びを色、形、線で表現する子どもたち。日常生活のたわいもない会話の中から豊かな子どもの世界が見えてくる。その一人一人の世界（個性）を表現する場が描くことなのでしょう。描きたい時に描く……。自分の心の中を開放できる場が一つでも多くあることが自信につながっていくのです。素直な感情を表現する力を育てること。それが、子どもたちのやる気につながっていくのではないのでしょうか。そして、それが生きる力にもつながっていくのであると思います。何気ない子どものつぶやきや行動に目を配り、一人一人のよさ（個性）を認め伸ばしていくことが私たちの務めであり、そのために日々反省を繰り返しながら保育者同士助け合い協力し合っていくことが何より大切なのだと思います。

幌
西

「子どもの思いあふれる表現」を求めて

大阪府 大阪市立今川小学校 狩 谷 潤 也



図画工作の学習を通じて、子どもが「やった！できた！」と達成感を持ち、互いを認め合うことのできる「あったかい学級づくり」を目指し、日々の実践に取り組んでいます。

「子どもの思いあふれる表現」を引き出す題材例や指導のあり方・評価について、みなさんと考えていきたいと思ひます。

1年生の実践をもとに、①題材例と授業のねらい②学習活動の指導と評価③他教科や言語活動との関連④幼小（保小）連携、の4つの視点から提言します。

子どもが表現にこだわるとき 作品づくりから見える子どもの姿

北海道 更別村立上更別小学校 土橋直美



子どもが表現にこだわり始めたら、「しめた！」と嬉しくなります。それは、子どもが「わたし」（自分自身）を創ろう」として、いることに他ならないと思うからです。では、どのような題材を、どのタイミングで、どのような投げかけで与えると、子どもたちのこだわりを引き出すことができるのでしょうか？ 題材設定を学級づくりと結びつけて考え、作品制作を通してどのような力を育てていくことができるのかを考えること、そして、図工の時間に子どものいろいろな姿や変容を見られることが私にとっての楽しみです。

生徒のやる気を引き出す「あったかい！」評価とは

青森県 板柳町立板柳中学校 高安弘大



学習評価は、PDCAサイクルの中で適切に実施されること、そして指導要録や通知表の評定をつけるためにあるのではなく、生徒の「やる気」を引き出し、「生きる力」を培う教育活動の重要な一部であると考えます。

今回の提言では、本校での実践【①発想や構想の能力を高める三つの交流 ②私の作品集（ポートフォリオ）づくり ③評価カードの取組】をもとに、生徒の「やる気」を引き出す、「あったかい！」評価とはどうあるべきか、みなさんと一緒に考えたいと思います。

自ら学ぶ意欲をもたせる授業づくりをめざして～アートの力がもたらす内発性を生かして～

奈良県 奈良市立二名中学校 江村圭造



自ら学ぶ意欲をもたせる授業をどのように創造すればいいのか日々悩んできました。ここ数年の取組でわかってきたのが、次の3つの事項を実現させることの大切さです。①生徒自身が満足できる作品を生み出すことのできる授業を追求し、達成感をもたせる。②学校行事との関連を図り、美術という教科があることの意味を実感させる。③コミュニケーションにより集団の力を生かす授業を設定し、学ぶ喜びを体験させる。これら三つの底流に流れているのが、アートの力とも言えるべき美術という教科がもっている懐の深さです。

見つける、考える、学び合う鑑賞学習

滋賀県 大津市立瀬田中学校 伊庭 照実



週1時間だけしかない美術の授業。その限られた時間の中で子どもたちと美術との出会いを有意義なものにしたい。表現の時間と共に鑑賞の時間も大切にしたい。

生徒が「学習して良かった」と感じてくれるような鑑賞の授業をめざして試行錯誤を続けています。最近の実践例を紹介しながらみなさんと共に考えたいと思います。

生徒の『造形活動のよさや楽しさの実感』をめざした指導過程の在り方 ～「かく・つくる」と「みる・感じる」を「考える・工夫する」でつなぐ指導と評価の一体化を目指して～

北海道 北海道教育大学附属釧路中学校 花輪 大輔



本提言では、生徒が主体的に学習の内容に働きかけ、その過程や結果から獲得する価値を高めるための「指導と評価の一体化」をテーマとしています。実践事例では自分の撮影した写真を用いた「学校CM」を取り上げます。指導と評価の一体化に向けて、自らの表現意図や価値意識を明確にするために、授業者がクライアント、生徒をCMプランナーと見立てたロールプレイを取り入れるとともに、視聴者の立場を意識させ言語活動の充実を目指していました。創造過程を重視した“教師のまなざし”を皆さんとともに考えたいと思います。

研究のあゆみ 規約 名簿



全国造形教育研究大会のあゆみ

回数	年月	会場	大会主題
1	昭和23.10	一宮市	図画工作教育の根本理念の討議と解明
2	24.10	京都市	図画工作教育振興の具体案如何の協議
3	25.9	広島市	図画工作における評価の実際
4	26.10	福岡市	鑑賞教育、全国児童図画工作展
5	27.10	金沢市	生活と美術、全国児童生徒図画工作・作品展
6	28.11	大阪市	指導要領の検討
7	29.8	仙台市	指導要領ならびに指導内容の検討
8	30.11	東京都	現下の図画工作教育を阻むものは何か、改善策
9	31.8	札幌市	造形教育において、作りだす力を養うにはどうすればよいのか
10	32.10	松山市	現代日本の図画工作教育の反省と今後の方向
11	33.10	長野市	図画工作科の本質を再検討し今後の対策をたてる
12	34.10	神戸市	図画教育の実情を明らかにし、その新しい建設へ
13	35.8	神奈川県	生きる喜びの基をつくり出す造形教育
14	36.11	別府市	いきいきとした生活をつくりだす造形教育
15	37.10	富山市	人間づくりの造形教育を確立するために
16	38.8	東京都	科学と美術教育、伝統と美術教育、原理と方法
17	39.11	宇都宮市	造形教育の実践をとおして、豊かな個性を育てる
18	40.8	東京都	第17回国際美術教育会議東京大会の内容に包含されておこなわれた
19	41.10	盛岡市	たくましい創造力を育てる造形教育の実際
20	42.10	新潟市	人間形成をめざす造形教育の現実的課題と解決策
21	43.8	高知市	造形教育の今日的課題を究明し、ゆたかな感性とたくましい表現力を育てよう
22	44.8	那覇市	造形教育を風土の中でどのようにいかすか
23	45.10	秋田市	ほんとうの美しさをつくりだす授業をもとめて
24	46.10	静岡市	たくましい創造力を育てる造形教育
25	47.11	東京都	未来を指向する美術教育は何か
26	48.10	京都市	わが国の造形教育の今日的課題は何か
27	49.10	和歌山市	子どもと共にあゆむ造形 —ゆたかな発想をもとめて—
28	50.10	山形市	ゆたかな心情とたくましい創造力を育てる造形教育
29	51.6	東京都	緊迫した教育課程改訂にどう対処するか
30	52.7	札幌市	みずみずしい中身でしなやかな子どもを育てる造形実践
31	53.10	埼玉県	造形教育の本質にせまる実践はどうあるべきか

回数	年月	会場	大会主題
32	昭和 54.10	仙台市	豊かな創造力を育てる造形活動を求めて
33	55.7	愛知県	自らつくりだす喜びを育てる造形教育
34	56.6	長岡市	生きているあかしの表現
35	57.11	佐賀県	創り出すよろこびを求めて — 日々の実践の中で、今日的課題を探る —
36	58.11	東京都	独自性を見なおす — 国際的視野に立った発展する美術教育の今日的課題 —
37	59.10	長野県	心おどらせてとりくむ造形
38	60.10	奈良県	明日に生きる創造力の開発をめざして
39	61.8	旭川市	子どもの心をゆり動かす造形教育 — つくる心の拡がりや深まりを求めて —
40	62.10	千葉県	子どもの心を掘り起こす造形教育
41	63.11	愛媛県	心ときめき、ひびきあう美術教育
42	平成 1.8	青森県	子どもの心に創るよろこびをひきおこす造形教育 — 豊かな感性と、うるおいのある表現活動を求めて —
43	2.11	熊本県	よろこび・いきいき造形教育 — 自己表現に心ふるわせる子どもを求めて —
44	3.7	東京都	審美教育と英知
45	4.11	京都府	新たな時代をきり拓く造形教育
46	5.8	沖縄県	21世紀に向けての造形教育
47	6.11	神奈川県	いま、さらに 豊かな感性・創造のよろこびを
48	7.11	長野県	いのちにふれる造形活動 — つくるよろこび自分らしさの表現を求めて —
49	8.10	東京都	人間・表現・環境
50	9.7	東京都	造形美術教育の再創造
51	10.8	東京都	人間・造形美術・教育 — 造形美術教育の再創造 —
52	11.8	埼玉県	自分“彩”発見 「自分さがしの旅」をしつづける子どもの造形活動
53	12.8	静岡県	開く造形教育に 生き生き交流
54	13.9	北海道	<いま><ここ><わたし>を基軸にして造形の未来を創る
55	14.8	沖縄県	南風にのせ! 手・目・心の万人(うまんちゅ)の造形教育
56	15.11	東京都	「人間・造形・成長」 — 造形美術教育を問い直す —
57	16.8	福島県	「ほんとうの空のもと ほんものに出会う瞬間」 — 自分いろいろの造形活動を求めて —
58	17.11	神奈川県	つくり続けるよろこび、それは生きるよろこび ～色と形のメッセージ! からWEから～
59	18.11	長野県	私っていいな!! “いろ・かたち” 生きあい学びあい
60	19.11	熊本県	夢と勇気と感性と — 未来を拓く造形教育の可能性を求めて —
61	20.8	大阪府	こころの教びを広げる教育美術のこれから — 変えるもの・変えざるもの・教育原理の再構築へ —
62	21.11	千葉県	きらめく感性 ときめく思い うみだせアート
63	22.8	福島県	「つくる喜び、みる感動!! 子どもの今と未来をつなぐ造形教育」 ～連携を大切にしたいこれからの造形教育を求めて～
64	23.7	北海道	“わたし” を創る — 自立と共生の造形教育をめざして —

全国造形教育連盟規約

- 1 (名称) 本連盟は、全国造形教育連盟と称する。
- 2 (目的) 本連盟は、全国造形教育の振興をはかる。
- 3 (事業) 本連盟は、上の目的を達成するために、次の事業を行う。
 - イ 各加盟団体及び各学校種別部会間の研究の交流、その連絡を行う。
 - ロ 毎年1回大会を開き、研究ならびに必要な決議を行う。
 - ハ 目的を同じくする他の国際的機関および国内的機関団体等との研究の交換、その他の連絡を行う。
 - ニ その他本連盟の目的達成に必要な事業を推進する。
- 4 (組織) 本連盟は、各都道府県の造形教育団体をもって組織する。
- 5 (機関) 本連盟に次の機関をおく。
 - イ 決議機関として代議員会
 - ロ 執行機関として本部役員会
- 6 (代議員会) 代議員会は本部役員ならびに代議員を以て構成し、毎年1回委員長の召集により大会会期中に行う。代議員は各都道府県の代表7名とする。
- 7 (本部役員会) 本部役員会は、委員長1名、副委員長3名、事務局長1名、学校種別部長各1名を以て構成し、必要に応じて委員長が召集する。
- 8 (役員の仕事) 委員長は本連盟を代表し会務を執行する。副委員長は委員長を補佐する。部長は学校種別に必要な事業を推進する。監査役員は2名とし、会計の監査にあたる。
- 9 (役員の出任任期) 委員長、副委員長、監査委員は代議員の互選により選出し、任期は2ケ年とする。
- 10 (事務局) 委員長のもとに事務局をおく。事務局は事務局長1名と事務局員若干名とし、本連盟の事務及び会計にあたる。
- 11 (経費) 本連盟の経費は、加入団体の負担金ならびに事業収入、その他寄付金をもってまかなう。
 - イ 加盟団体の負担金は、年額1都道府県8,000円(1都道府県内に2以上の加盟団体をつくるときは1団体4,000円)とする。(1998年8月19日、東京大会において負担金額改正)
 - ロ 大会会費は、その都度決定し参加者の負担とする。部会の経費は必要に応じ大会会費は、その都度決定し参加者の負担とする。部会の経費は必要に応じ、別に徴収することができる。
- 12 (規約の発効) この規約は昭和49年10月30日より発効する。平成18年11月1日改正、同日発効。平成19年11月14日改正、同日発効。

《申し合わせ事項》

- 1 各都道府県団体に各校種別(保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、特別支援学校)が揃っている場合は、それぞれから代表する代議員7名を限度として選出する。各校種が揃っていない場合は、所属する校種から備りのないよう選出する。毎年5月末日までに連盟本部に連絡する。代議員は単なる代議員会構成員であるだけでなく、連盟本部を通じて全国諸団体との日常的な研究、交流、運動等の情報交換を行う。(1992年11月18日、京都大会において代議員5名を7名に変更)
- 2 当分の間、都道府県の実績によっては、当該都道府県団体の希望があれば、県内地域、あるいは学校種別団体の全連への直接加盟を認める。この場合は加盟団体毎に負担金を納入し、代議員は学校種数の人数を選出する。
- 3 副委員長は、各都道府県から全連連全国大会開催地の当該年度代表者と次年度代表者、及び委員長が推薦した者の3名とする。

造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会のあゆみ

年度	回数	開催地	参加者	大会運営 委員長	大会テーマ	内 容		講演講師
						公開学習数	分科会数	
昭和 24.12	1	大阪府	600		図工カリキュラム			鍋井 克之 石原 正徳
25. 6	2	布施市	600		図工カリキュラム			須田国太郎
26. 5	3	徳島市	800	河野 太郎	指導上の具体的な諸問題の解明			外山卯三郎
27. 6	4	岡山市	1,000	岡 金吉	図画指導上の具体的な諸問題の解明			須田国太郎 石原 正徳
28. 6	5	岐阜市	1,200	板井 範一	図画工作教育の具体的な諸問題の解明			福島繁太郎 井嶋 宗慈
29. 5	6	泉大津市	1,800	友永 謙二	図画工作教育の具体的な諸問題の解明			武者小路実篤 鍋井 克之
30. 5	7	高松市	2,000	谷口 国介	図画工作教育の具体的な諸問題の解明	38	26	猪籠弦一郎 小池岩太郎
31. 6	8	鹿児島市	2,000	中村 安昭	図画工作教育の具体的な諸問題の解明	57	27	周郷 博 上田 暁
32. 6	9	静岡市	2,500	小田切正三	図画工作教育の具体的な諸問題の解明	82	32	中川 一政
33. 6	10	大津市	3,000	北川 威夫	図画工作の学習をどのように進めるべきか	74	38	河井 寛治
34. 6	11	鳥取市	3,300	寺坂 正信	生活にねざした感動を	70	36	柳 宗理
35. 6	12	堺市	3,300	吉田 佐伯	たくましい子どもを育てる造形活動	92	37	竹中 郁
36. 6	13	福島市	3,400	山川 忠義	根強い心を育てる造形活動	104	32	大高 正人
37. 6	14	熊本市	3,500	岡 周末	真実を求めてやまめ造形活動	113	37	樽崎 宗重
38. 6	15	広島市	3,500	江坂 重雄	ひとりひとりを生かす造形活動	111	44	松原 郁二
39. 6	16	和歌山市	3,500	松下 克己	つみあげる造形活動	134	41	小磯 良平
41. 6	17	南河内地区	3,000	宮脇 昇	ものの見方、感じ方を深める造形活動	109	43	木崎 国嘉
42. 6	18	宮崎市	3,500	池田 絹男	豊かな人間性を培う造形活動	140	64	岩切章太郎
43. 6	19	鳥取市	3,000	長尾 政夫	創りだす鳥取の子ども	118	37	森戸 辰男
44. 6	20	山口市	4,000	潮田 親吾	よろこびの造形活動	65	36	小林 秀雄
45. 6	21	大阪市	4,500	三和益二郎	あすを拓く美術教育	199	40	秋田 実
46. 6	22	高山市	3,200	安藤 勲	みつけ、つくりだす力を育てる美術教育	51	35	
47. 6	23	松山市	4,000	石井 南放	生きがいの美術教育	80	40	倉田 三郎
48. 6	24	長崎市	4,200	山中清一郎	つくりだすよろこびを育てる造形教育	83	41	乾 一男
49. 6	25	兵庫・姫路	3,500	矢部 茂太	つくりだすよろこびへのたしかな表現力	91	48	坂本 勝
50. 6	26	東大阪市	3,500	石田 進	「美術教育の果たす役割とは何か」 原点に戻って考えてみよう	51	42	司馬遼太郎
51. 6	27	大分市	2,500	仲町 謙吉	豊かな心と、たしかな造形力を求めて	58	41	高山 辰雄
52. 6	28	浜松市	4,000	嶋村 隆志	「美術教育の果たす役割とは何か」 —原点にもとめて考えてみよう—	95	47	高柳健次郎
53. 6	29	倉敷市	4,250	藤原 宏	豊かな心を育てる造形教育 —つくりだす喜びを求めて—	88	50	外村古之介
54. 6	30	鹿児島市	4,000	児玉 光仙	豊かな人間性をとりもどすための造形教育	81	42	椋 鳩十

年度	回数	開催地	参加者	大会運営 委員長	大会 テ ー マ	内 容		講演講師
						公開学習数	分科会数	
昭和 55. 6	31	守 口 市	4,200	東条 正弥	みなおしの美術教育	95	87	亀井 一成
56. 6	32	広 島 市	3,300	反田 十郎	よろこびと自信をもたせる造形教育	139	76	平山 郁夫
57. 6	33	徳 島 市	3,500	佐藤 聖二	豊かな心とたしかな表現を育てる造形教育	67	42	瀬戸内寂聴
58. 6	34	大 津 市	4,000	立岡 基雄	日本の美術教室をみなおそう 一人ひとりが表現に生きる一	66	66	針生 一郎
59. 6	35	加 賀 市	3,000	山本 弘	豊かな表現教育にとりくむ加賀の子ども	83	54	嘉門 安雄
60. 6	36	泉南郡市	3,000	山本美寿雄	表現のよろこびを深める造形教育	169	84	ミヤコ蝶々
61. 6	37	静 岡 市	3,500	清水 貢	豊かな人間性を育てる造形教育	117	46	小川 国夫
62. 6	38	姫路・兵庫	3,000	永濱 満	みんなが創り出す喜びを ひとりひとりを生かした一	118	63	伊藤 誠
63. 6	39	岐 阜 市	4,000	郷 悦三	感性をみがき自己表現力を育てる美術教育	130	77	米倉斉加年
平成 1. 6	40	南 河 内	3,500	中内 定三	心はずむ美術教育	132	57	中村 順司
2. 6	41	神 戸 市	4,000	石塚 博	個を生かす美術教育	91	49	新川 昭一
3. 6	42	鹿 児 島 市	2,000	野間 隆	つくる よろこび はずむ教育	73	38	濱里 忠宣
4. 6	43	岡 山 市	4,000	守安 澁	「心をはくくむ造形教育」	96	62	秋田 実
5. 6	44	大東・北河内	4,000	四宮誠二郎	『自己表現をめざす造形教育・美術教育』	118	56	川島 英五
6. 6	45	富 山 市	2,000	萩中 幸雄	個性がふれあう造形教育	131	40	前田 常作
7. 6	46	長 崎 市	1,800	黒木 武人	感性をつちかい創造によるこぶ子ども	86	49	中野太郎右衛門
8. 6	47	鳥 取 市	1,500	杉本 隆喜	いま感性一創造によるこびを	35	25	板良敷 敏
9. 6	48	大 阪 市	2,500	澧江 陸郎	輝け！こころ・いのち 一表現を楽しみ生きる力を育む一	122	30	安藤 忠雄
10. 6	49	京 都 市	2,000	木村 暈好	子どものよさを生かし、生きる力を育む造形活動	62	29	梅原 猛
11. 6	50	大 分 市	2,500	仲町 謙吉	21・心かがやけ 大分っ子 一よろこび、たのしみ自ら体感する造形活動一	62	29	磯崎 新
12. 6	51	枚方・寝屋川市 大 阪 市	2,500	末延 國康	なにわ発21世紀へ 一めざせ、おもてたまん造形活動一	64	34	松本 零士
13. 6	52	大津市・草津市 守 山 市	2,200	木村 孝英	新世紀を拓く造形教育 一生きる力を育む「造形体験」の基礎・基本一	72	29	元永 定正
14. 7	53	宮 崎 市	1,600	佐原 哲也	造形の発見	15	15	古垣 隆雄
15. 11	54	大 阪 市	1,800	西川 徳蔵	造形活動の広がりとお術教育の新たな展望 一生きる喜びにつなげて一	31	25	森村 康昌
16. 11	55	松 山 市	2,000	其田健一郎	これが私の表現	17	36	日比野克彦
17. 11	56	佐 賀 市	1,300	前村 晃	であい ふれあい ひびきあい そして自分らしさが輝くとき	23	17	針 すなお
18. 11	57	広 島 市	1,600	奥原 球喜	とどけ ひろしまからのメッセージ 一感じる心を輝かせる造形教育一	50	19	平山 郁夫
19. 11	58	熊 本 市	1,200	石井 祐治	夢と勇気と感性と 一未来を拓く造形教育の可能性を求めて一	22	7	浜田 知明
20. 8	59	大 阪 市	4,300	山本 啓介	こころの喜びを広げる教育美術のこれから 一考えるもの・愛さざるもの・教育原理の再構築へ一	25	61	平田 智久 岡村 高徳
21. 11	60	愛 知 県	1,500	岡田 順一	生きる力の根っこをはくくむ	42	61	加藤 作助
22. 10	61	京 都 市	1,300	平尾 隆史	美術教育が育む 生きるかがやき	65	25	上村 淳之
23. 7	62	札 幌 市		塚野 昭臣	“わたし”を創る ～自立と共生の造形教育をめざして～	20	42	岡村 高徳 岡村 高徳

日本教育美術連盟規約

(Federation of Art Education in Japan・略称 FAEJ. since 1949)

名称	【第1条】 本連盟は、日本教育美術連盟（Federation of Art Education in Japan・略称 FAEJ）と称する。
目的	【第2条】 本連盟は、日本造形表現・図画工作・美術教育、社会にある教育美術活動等、公共中正、非営利をもって、その振興発展に寄与することを目的とする。
事業	【第3条】 本連盟は、第2条の目的を達成するため次の事業を行う。 (1)全国大会行事 (2)教育美術指導者育成事業 (3)教育美術研究集会事業（夏期研究会、幼児造形 Koyasan 集会、その他の研修会）(4)教育美術文化の振興事業 (5)その他の事業（研究調査、刊行事業等を含む）
日本教育美術研究機構	2. これらの事業を推進するために、連盟に「日本教育美術研究機構」を置く。細則は別に定める。
組織	【第4条】 本連盟は、連盟加盟の各種団体、連盟目的に協賛する日本各地の単位教育美術研究団体、及び協賛して連盟に加入登録をする個人会員をもって組織する。 2. 連盟個人会員は、申し込みにより日本教育美術研究機構が開催する研究事業に参加することができる。
役員	【第5条】 連盟本部に、次の役員を置く。 理事長 1名、副理事長若干名、事務局長 1名、本部理事若干名（会計担当者 1名）、監事若干名。 2. 名誉理事 若干名とする。
理事	【第6条】 連盟の理事は、各年度の造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会を開催した単位美術教育研究団体から選出する。 【第7条】 理事長は、理事会の推薦によりこれを決定する。 2. 理事長は、連盟を代表し、連盟業務を統括する。 3. 理事長は、副理事長以下の役員を選任し、理事会の承認を得る。 副理事長は、理事長を補佐する。 事務局長は、本連盟の事務を掌る。 本部理事は、連盟業務を分掌し、運営推進を行う。 本部理事（会計）は、連盟会計を掌る。 監事は、会計監査を行う。 4. 名誉理事は、理事会に参加する。 5. 理事長の委嘱により連盟本部に評議員、実行委員を置く。 6. 評議員、実行委員は、連盟「日本教育美術研究機構」の運営を行う。
評議員、 実行委員	【第8条】 理事会は、理事長が招集し、重要問題について議決する。
理事会	【第9条】 連盟の事務局は、事務局長の勤務する場所に置く。
事務局	【第10条】 連盟の事業は、次の費用によって推進する。 (1) 連盟事業に参加する会員個人による負担金 (2) 加盟単位研究団体の年度負担金 (3) 本連盟の事業を共催、後援する各種団体よりの助成金 (4) 本連盟の事業に協賛する各種団体よりの寄附金 (5) 企業による本連盟事業援護（メセナ）活動援護金 (6) 連盟に加入登録する個人会員は、年度ごとに登録会員費を納入しなければならない。年度会員費は、個人会員あての諸費（送付資料費、通信費等）に充当する。
事業費の執行 と会計報告	【第11条】 第10条(1)、及びその関連する事業における第10条(3)・(4)については、当該事業ごとに収支を決算し、公示報告を行う。 【第12条】 第10条(2)、及び(3)～(5)による連盟年度事業にあたっては、毎年6月より翌年5月までを会計年度とし、事業費の会計計画により、その執行をはかる。 事業費会計は、予算案・決算について理事会承認を必要とする。 【第13条】 第10条(2)にいう団体年度負担金の金額は、別途定める。
連盟の総会	【第14条】 総会は、各年度の全国大会全大会で開催し、理事会事項等の伝達を行う。
幼児造形教育連盟	【第15条】 本連盟の中に、幼児造形教育連盟を置く。 2. 幼児造形教育連盟の理事は、本連盟の役員が兼ね、運営と事業にあたる。
規約の改正	【第16条】 本規約の改正は、理事会において行う。
規約の実施	【第17条】 本規約は、昭和24年4月1日から実施する。 【付則1】 規約改正(1)昭和33年8月改正 (2)昭和43年8月改正 (3)昭和45年6月改正 (4)昭和57年8月改正 (5)平成11年6月改正 (6)平成13年6月改正 (7)平成14年7月改正 (8)平成15年11月改正 (9)平成18年11月改正 【付則2】 第12条による事業費会計は、平成12年5月より実施する。

全道造形教育研究大会のあゆみ

年	回	開催地	テ　　マ	委　員　長 会　　長	備　考
1949年			(札幌美術連盟組織 全道図画工作教育講習会)		
1950年	第1回		情操教育の一環としての本道図画工作教育の進展を図るため		北海道美術教育会と改称 第1回全道図画工作教育委員会
1951年		札幌		第1代 野村 英夫	北海道図画工作連盟創立
1952年	第2回	札幌	図画工作教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について	〃	
1953年	第3回	旭川	美術教育の指導とは何か	〃	
1954年	第4回	函館	図画工作教育実践上の諸問題について	〃	
1955年	第5回	釧路	図画工作教育における学習指導上の問題の解明	〃	
1956年	第6回	札幌	造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか	〃	
1957年	第7回	室蘭	のぞましい造形教育における具体的諸問題について	〃	
1958年	第8回	小樽	図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか	〃	
1959年	第9回	帯広	新段階における造形教育のあり方	〃	北海道造形教育連盟と改称
1960年	第10回	網走	本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見出そう	〃	
1961年	第11回	滝川	子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか	〃	
1962年	第12回	名寄	子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか	〃	
1963年	第13回	余市	子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか	〃	
1964年	第14回	札幌	子どもの創造能力とは何か	第2代 新妻 清	
1965年	第15回	稚内	子どもの創造能力とは何か	〃	
1966年	第16回	室蘭	子どもの造形能力とは何か	第3代 赤石 武士	
1967年	第17回	函館	指導の構築を具体化する	〃	
1968年	第18回	苫小牧	指導の構築を具体化する	〃	
1969年	第19回	札幌	造形能力は、どのような指導によって育てられるか	第4代 和田 芳郎	
1970年	第20回	旭川	ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか	〃	
1971年	第21回	札幌	造形能力は、どのような指導によって育てられるか	第5代 伊東 得夫	
1972年	第22回	帯広	未来に生きる子どもの造形教育 (生活に根ざした造形教育をどう高めるか)	第6代 高橋 栄吉	
1973年	第23回	室蘭	未来に生きる子どもの造形教育 (たしかな表現力をどのように育てるか)	〃	
1974年	第24回	美幌	未来に生きる子どもの造形教育 (ひとりひとりの子どもの表現力をどう高めるか)	〃	第1回 教育美術展
1975年	第25回	江別	未来に生きる子どもたちの造形教育 (自ら創り出す力をどう育てるか)	〃	
1976年	第26回	岩見沢	未来に生きる子どもの造形教育 (すべての子どもに造形によるこびを)	〃	第1回 立体造形展
1977年	第27回	札幌	みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践	〃	第30回全国造形教育 研究大会をかねる
1978年	第28回	函館	みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践 (すべての子どもが生き生きとくむ学習)	第7代 辻 悦平	
1979年	第29回	旭川	生き生きとしたゆとりのある子どもを育てる図工美術教育のあり方	〃	

年	回	開催地	テ　　マ	委　員　長 会　長	備　考
1980年	第30回	苫小牧	ひろがりと深まりの造形教育を求めて	第7代 辻　悦平	
1981年	第31回	釧　路	創りだす心をよびおこす造形教育	〃	
1982年	第32回	室　蘭	見る、知る、感ずる、そして創りあげる喜びを	第8代 遠藤　久男	
1983年	第33回	留　萌	生活とふれ合い、創る心のひろがりを求める造形活動	〃	
1984年	第34回	札　幌	知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動 (わきたつ発想・たしかな表現・つくりだす喜び)	第9代 榎市誠次郎	
1985年	第35回	函　館	知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動 (心をこめてつくりだす子どもを育てる)	〃	
1986年	第36回	旭　川	子どもの心をゆり動かす造形教育 (つくる心のひろがり求めて)	第10代 森川　昭夫	第39回全国造形教育 研究大会をかねる
1987年	第37回	紋　別	子どもの心をゆり動かす造形教育 (表現のよこごびにひたる子どもを育てる)	第11代 松島　輝男	
1988年	第38回	滝　川	子どもの心をゆり動かす造形教育 (ひたむきに創る心を育てる)	〃	
1989年	第39回	帯　広	子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実 (君はいま創造のとりこに)	第12代 金井　秀男	
1990年	第40回	苫小牧	広がり、深まり、そして感動を！	〃	
1991年	第41回	札　幌	子どもの個性的表現を授ける造形教育 (子どものつくる喜びをひろく)	第13代 佐々木理温	
1992年	第42回	函　館	子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実 (感動、そして創造する喜びを)	〃	
1993年	第43回	旭　川	思いをあたため心はずませる創る喜びを	第14代 鹿嶋　健	
1994年	第44回	釧　路	心ときめく、創造の喜びを求めて	〃	
1995年	第45回	千　歳	豊かな心と確かな力をはくむ造形学習を	第15代 船越　昭弘	
1996年	第46回	札　幌	～造形＝愛感美遊創 in 札幌～ 自らの心を拓く造形学習の在り方	第16代 白井　國経	
1997年	第47回	根　室	感性から発し躍動する力を育む造形学習を！	第17代 吉田　優雄	
1998年	第48回	留　萌	楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と共感し 寄り添う指導	第18代 芝木　秀昭	
1999年	第49回	オホーツク	オホーツク発　思・創・喜・感 ～一人ひとりが創造的な喜びを実感するために～	〃	
2000年	第50回	函　館	心の風暴（ビジョン）の発信を！ ～豊かな自分づくりを生かす想創活動～	〃	
2001年	第51回	札　幌	風よ、大地よ、夢よ、北からはじまる造形の未来 ～(いま)(ここ)(わたし)を基軸にして造形の未来をつくる	〃	第54回全国造形教育 研究大会をかねる
2002年	第52回	帯　広	広い大地に紡ぐ夢 豊かな感性をはくむ造形教育	第19代 藤井　正治	
2003年	第53回	空　知	つくる喜びを実感できる造形教育	〃	
2004年	第54回	旭　川	豊かに感じおもしろいをふくらませあらゆる喜びを生 の造形教育～身体で感じ、感性を磨くための出会いを求めて～	第20代 富田　泰	
2005年	第55回	函　館	めざめる感性（こころ）きらめく個性（かたち） 地域空間がいざなう造形活動のひろがり	第21代 今　裕子	
2006年	第56回	札　幌	楽しさあふれ、確かな表現を実感する造形教育	〃	
2007年	第57回	釧　路	「できた！」「いいね！」の喜びが息づく時間を求めて ～つくる喜び、感動する心をつなげていく造形教育～	〃	
2008年	第58回	いしかり 北広島	豊かな心と確かな力を育む造形教育を！	第22代 菅原　清貴	
2009年	第59回	上川・旭川	身体で感じ・心はずませ・創造する喜びを ～「いま・ここで」「つなげる」造形教育を求めて～	〃	規約改正により委 員長を会長に改称
2010年	第60回	函　館	創造！　ときめき！　実感！ ～感性と知性の出会い　心うるおす造形活動～	〃	
2011年	第61回	札　幌	“わたし”を創る ～自立と共生の造形教育をめざして～	〃	

北海道造形教育連盟規約

1. 名称と目的

本連盟は、北海道造形教育連盟といひ、北海道の造形教育の振興を図るをもって目的とする

2. 事業

本連盟は、目的を達成するため次の事業を行う
①研究会・講習会・展覧会等の開催及び後援
②造形教育に関する教科書・教材・教具等の研究
③会報の発行
④他の造形教育団体との連絡提携
⑤その他、本連盟の目的達成に必要と認められる事項

3. 会員

会員 本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員
賛助会員 本連盟の目的に賛同するもの

4. 組織

地区サークル 本道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属する
本部 本連盟の本部は、札幌に置く

5. 構成及び任務

①役員
会長 1名 本連盟を代表する
副会長 若干名 会長を補佐する
会計監査 2名 会計の監査をする
②委員
地区委員長 地区1名 地区サークルを代表する
地区委員 地区1名 地区サークルの連絡調整にあたる
(地区委員は、地区委員長を兼務してもかまわない)
常任委員 若干名 会長が委嘱し、本連盟の運営に当たる
顧問 連盟の重要な問題につき意見を述べる
③部長 各部推進の要として常任委員より会長が委嘱し、会務の分掌及び執行にあたる

6. 選任

会長、副会長、会計監査は委員総会で選出する
地区委員長及び地区委員は、地区サークルで選出する
常任委員は会長の委嘱による
顧問は委員総会において委嘱する

7. 任期

役員及び委員の任期は1ヵ年とする、但し再任を妨げない

8. 会議

総会 必要に応じ開催し、連盟事業につき協議する
委員総会 役員、委員をもって構成し毎年開催する
常任委員会 役員、委員の選出、予算、決算及び事業の年度計画等につき審議する
役員会 役員及び常任委員をもって構成し、連盟の事業を執行する
部長会 会長、副会長、事務局長、会計により構成し、必要に応じ会の運営について協議する
本部役員、各部部長により構成し、必要に応じ各部事業等についての連絡調整を行う

9. 会計

本連盟の会計は、会費・事業収入及び寄付金により執行する
会費 会員は、一人 年額 2,000円を納入するものとする
地区サークルは、年額10,000円を納入するものとする

10. 事務局

事務局は事務局長在勤の学校に置く
事務局長は常任委員中より会長が委嘱する
事務局には必要に応じて各部を設け、業務を分担する
事務局に事務局次長、会計担当を置く

11. 年度

本連盟の事業並びに会計年度は、5月に始まり翌年4月に終わる

12. 規約の改廃

規約の改廃に当たっては特別委員会（規約改正委員会）を設け、規約改正案を総会に提出する
本規約の改廃は委員総会の決議による

(平成6年4月29日改訂)
(平成19年4月28日改訂)
(平成21年4月総会にて改訂)

平成23年度 全国造形教育連盟本部役員

役 職	氏 名	〒 勤 務 校 地	TEL FAX
委員長	永 関 和 雄	町田市立町田第三中学校 〒194-0032 東京都町田市本町田1853	042-722-6095 042-721-4386
副委員長	菅 原 清 貴	札幌市立幌西小学校 〒064-0810 北海道札幌市中央区南10条西17丁目1-1	011-561-2201 011-561-6213
副委員長	金 城 安 正	浦添市立浦添中学校 〒901-2103 沖縄県浦添市仲間二丁目46番1号	098-877-2066 098-877-2808
副委員長	天 形 健	福島大学附属中学校 〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地	024-548-8225 024-548-8225
副委員長	中 村 一 哉	府中市立府中第五中学校 〒183-0052 東京都府中市新町2-44-20	042-361-9305 042-334-0895
会計監査	水 島 尚 喜	聖心女子大学 〒150-8938 東京都渋谷区広尾4-3-1	03-3407-5954 03-5485-3526
会計監査	菊 田 寛	墨田区立吾嬬第二中学校 〒131-0041 東京都墨田区八広4-4-4	03-3617-2180 03-3617-0420
国際局	大 坪 圭 輔	武蔵野美術大学 〒187-8505 東京都小平市小川1-736	042-341-5011 042-342-6373
事務局長	時 任 勝	府中市立矢崎小学校 〒183-0025 東京都府中市矢崎町4-9	042-307-8763 (事務局直通・共通)
事務局	加 藤 幸 子	新宿区立東戸山小学校 〒162-0052 東京都新宿区戸山2-34-2	03-3205-9504 03-3205-9487
事務局	菅 原 亮	品川区立城南第二小学校 〒140-0002 東京都品川区東品川3-4-5	03-3471-7481 03-3471-7442
事務局	山 崎 正 明	千歳市立北斗中学校 〒066-0073 北海道千歳市北斗5丁目1-1	0123-22-4151 0123-22-4152
事務局	上 野 目 浩 一	港区立六本木中学校 〒106-0032 東京都港区六本木6丁目8番16	03-3404-8855 03-3404-8856
事務局	佐 藤 真 理 子	大田区立南六郷中学校 〒152-0033 東京都大田区南六郷3-2-1	03-3732-9351 03-3732-9353

平成23年度 全国造形教育連盟 学校種別部長・事務局長

幼稚園・保育園 部 長	横 英 子	淑徳大学 〒260-8701 千葉県千葉市中央区大蔵寺町200	043-265-7331 043-265-8310
小学校(部 長) (事務局長)	高 橋 香 苗	江戸川区立南小岩小学校 〒133-0056 東京都江戸川区南小岩4-16-1	03-3657-1565 03-3658-5833
	濱 方 克 彦	北区立西ヶ原小学校 〒114-0024 東京都北区西ヶ原4-19-21	03-3910-5202 03-5567-4525
中学校(部 長) (事務局長)	菊 田 寛	墨田区立吾嬬第二中学校 〒131-0041 東京都墨田区八広4-4-4	03-3617-2180 03-3617-0420
	土 田 貴 司	東久留米市立大門中学校 〒203-0011 東久留米市大門町2-13-8	042-474-1753 042-472-7997
高等学校(部 長) (事務局長)	佐 藤 清 親	都立総合芸術高等学校 〒162-0805 東京都新宿区矢来町6番地	03-3268-0557 03-3268-8670
	栗 原 典 子	都立板橋高等学校 〒173-0035 東京都板橋区大谷口1-54-1	042-541-0222 042-546-0150
大 学(部 長) (事務局長)	山 中 隆	華頂短期大学 〒605-0062 京都市東山区林下町3-456	075-551-1188 075-551-1538
	北 澤 俊 之	東洋大学 〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20	03-3945-8568 03-3945-8568
特別支援(部 長) (事務局長)	兵 馬 孝 周	都立調布特別支援学校 〒182-8938 東京都調布市調布ヶ丘1-1-2	042-487-7221 042-481-9401
	石 丸 良 成	都立調布特別支援学校 〒182-8938 東京都調布市調布ヶ丘1-1-2	042-487-7221 042-481-9401
美術館(部 長) (事務局長)	三 澤 一 実	武蔵野美術大学教職課程研究室 〒187-8505 東京都小平市小川町1-736	042-342-9537 (直通・TEL・FAX共通)
	田 中 晃	川越市立美術館 〒350-0053 埼玉県川越市郭町2丁目30-1	049-228-8080 049-228-7870

日本教育美術連盟役員名簿

平成23年4月1日現在

理事	長	岩崎由紀夫	大阪教育大学
副理事	長	松山明	大阪市立昭和中学校
事務局長	長	藤丸一郎	寝屋川市立梅が丘小学校
理事	事	三澤正彦	大阪城南短期大学
理事	事	清原知二	関西学院大学
理事	事	末延國康	大阪芸術大学
監事	事	福岡知子	守口市教育委員会
監事	事	森繁樹	大阪市立横堀中学校
監事	事	伊藤正則	鯉サクラクレパス

北海道造形教育連盟役員名簿

会 副	会	長	菅 原 清 貴	札幌市立幌西小学校長
	〃	長	島 田 盛 茂	江別市立文京台小学校長
	〃		渡 辺 吉 二	旭川市立近文第一小学校長
	〃		中 村 吉 秀	函館市立桐花中学校長
	〃		奥 田 泰 朗	弟子屈町立昭栄小学校長
監		査	富 田 賢 司	札幌市立札幌北中学校長
	〃		辻 敦 郎	帯広市立第五中学校長
事 務 局		長	篠 原 寛 順	札幌市立西小学校長
事 務 局 次		長	稲 居 正 光	札幌市立旭小学校長
	〃		中 川 島 正 夫	札幌市立菊水小学校
	〃		東 島 尚 典	札幌市立手稲北小学校
	〃		福 島 由 紀 子	札幌市立平岡中央小学校
	〃		金 子 睦 樹	札幌市立円山小学校
	〃		向 井 正 哲	札幌市立中央中学校
会 計 次		長	三 井 修 子	札幌市立あいの里東中学校
全道事業部統括部長			高 向 和 男	札幌市立平岡中央小学校長
全道研究部統括部長			田 口 善 範	札幌市立厚別西小学校長
庶務部長			土 井 善 浩	札幌市立光陽小学校長
庶務副部長			箭 内 浩 之	札幌市立典駒内曙小学校
	〃		吉 伊 宏 子	札幌市立幌西小学校
広 報 部 長			中 川 治 彦	札幌市立伏見小学校
広 報 副 部 長			松 本 和 彦	札幌市立発寒小学校
	〃		大 高 雅 子	札幌市立柏中学校
	〃		櫻 田 悟 子	札幌市立平和小学校
事業活動部長			橋 本 祥 子	札幌市立あやめ野小学校
事業活動副部長			八 田 博 之	札幌市立中央小学校
	〃		池 田 武 彦	札幌市立本郷小学校
北海道教育美術展担当			濱 口 裕 子	札幌市立緑丘小学校
	〃		岩 崎 重 明	札幌市立南月寒小学校
	〃		中 村 麻 紀	札幌市立厚別西小学校
造形教室担当			奥 山 綾 芽	札幌市立常盤小学校
	〃		高 松 摩 衣	札幌市札幌ひまわり幼稚園
	〃		二ツ山 かおる	札幌市立上野幌東小学校
事業研修部長			柿 本 美 奈 子	札幌市立伏見小学校
事業研修副部長			石 川 早 苗	札幌市立八軒東中学校
	〃		祖父江 瞬	札幌市立中の島小学校
研 究 部 長			藪 下 栄 一	札幌市立藤野南小学校
研 究 副 部 長			湯 浅 大 吾	札幌市立伏見小学校
	〃		森 實 祐 里	札幌市立星置東小学校
	〃		水 野 一 英	札幌市立宮の森中学校
ネットワーク部長			小 林 知 広	札幌市立幌西小学校
ネットワーク副部長			伊 藤 聡 美	札幌市立幌西小学校
	〃		小 野 博 史	札幌市立中の島小学校
	〃		山 薫	札幌市立幌南小学校
	〃		岩 崎 愛 彦	北広島市立大曲小学校
	〃		佐 藤 祈 弥	由仁町立三川小学校頭
	〃		嶋 影 哲	小樽市立入船小学校
	〃		鳥 本 匡 洋	東川町立東川中学校

ネットワーク副部長	庄子展弘	旭川市立北星中学校
“	松岡宏悦	羽幌町立羽幌小学校
“	高島淳	七飯町立大沼中学校御嶽谷分校
“	木村伸仁	函館市立銭亀沢中学校
“	花岡康成	今金町立種川小学校
“	大年教子	むかわ町立鶴川中学校
“	大野達也	室蘭市立水元小学校
“	大宮下肇	苫小牧市立糸井小学校
“	澤田佳子	帯広市立第四中学校
“	小泉佳一	幕別町立札内中学校
“	若林朗子	北海道教育大学附属鶴路小学校
“	塩浦亜紀	網走市立潮見小学校
“	小野寺宏二	中標津町立広陵中学校校長
札幌市造形教育連盟(会長)	塚野昭臣	札幌市立向陵中学校校長
“ (委員・事務局長)	櫻田豊	札幌市立星置東小学校校長
石狩造形教育連盟(委員長)	鳥田茂	江別市立文京台小学校校長
“ (委員・事務局長)	池田元治	江別市立上江別小学校校長
空知美術教育研究会(会長)	白井万寿子	美瑛市立茶志内小学校校長
“ (委員・事務局長)	館山唯郎	滝川市立東小学校
後志教育研究会工芸美術部(委員長)	嶋影哲弥	小樽市立入船小学校
上川造形教育連盟(会長)	菅原敏光	東川町立東川第三小学校校長
“ (委員・事務局長)	鳥本匡洋	東川町立東川中学校
旭川市教育研究会工・美術部(部長)	森洋	旭川市立啓北中学校
“ (委員)	川原潤	旭川市立永山中学校
留萌地方美術教育研究会(副会長)	野島操	初山別村立豊嶺小学校校長
“ (委員・事務局長)	村元隆一	増毛町立阿分小学校校長
渡島美術教育研究会(会長)	村園壽英	八雲町立相沼小学校校長
“ (委員・幹事長)	後藤征秀	北斗市立上磯中学校
函館市美術教育研究会(委員長)	中村吉秀	函館市立桐花中学校校長
“ (委員)	木村伸仁	函館市立銭亀沢中学校
檜山造形教育研究会(会長)	茶碗谷稔	江差町立江差北小学校校長
“ (委員・事務局長)	花岡康靖	今金町立種川小学校
胆振造形教育研究会(会長)	佐竹秀行	むかわ町立鶴川中学校校長
“ (委員・事務局長)	大年教子	むかわ町立鶴川中学校
苫小牧市造形研究会(部会長)	宮下肇彰	苫小牧市立糸井小学校
“ (委員・幹事長)	鈴木梨沙	苫小牧市立豊川小学校
日高造形教育研究会(会長)	神成浩	浦河町立狭伏中学校校長
“ (委員・事務局長)	伊藤孝三	新ひだか町立春立小学校校長
室蘭市造形教育研究会(委員長)	大野達也	室蘭市立水元小学校
十勝造形サークル(委員長)	石割章浩	音更町立駒場中学校校長
“ (委員)	小泉佳一	幕別町立札内中学校
帯広市教育研究会工芸美術部(委員長)	辻敦郎	帯広市立第五中学校校長
“ (委員・事務局長)	梅津美香	帯広市立第二中学校
釧路造形教育研究会(委員長)	奥田泰明	弟子屈町立昭栄小学校校長
“ (委員)	杉山浩彰	釧路市立美原中学校
オホーツク造形教育連盟(委員長)	石橋一郎	西興部村立西興部小学校校長
“ (委員・事務局長)	添田好美	網走市立中央小学校
根室造形教育連盟(委員長)	大溝雅之	中標津町立計根別中学校
“ (委員・事務局長)	外川篤司	別海町立上風連小学校
釧路	秋山修世	函館市
“	阿部賢一	北見市
“	石井久	函館市

北海道造形教育連盟 地区サークル役員名簿

札幌市造形教育連盟

役名	氏名	勤務先
会長	塚野 昭臣	札幌市立向陵中学校 校長
副会長	田口 和男	札幌市立厚別西小学校 校長
副会長	谷山 圭子	札幌市立あいの里西小学校 校長
副会長	加藤 正幸	札幌市立太平南小学校 校長
副会長	益村 豊	札幌市立大谷地小学校 校長
副会長	土井 善範	札幌市立光陽小学校 校長
副会長	向 敏光	札幌市立元町中学校 校長
副会長	小泉 信嗣	札幌市立陵陽中学校 校長
副会長	後藤 和司	札幌市立平岸中学校 校長
副会長	阿部 宏行	北海道教育大学岩見沢校 准教授
事務局長	櫻田 豊	札幌市立星置東小学校 校長
事務局次長	松原 和彦	札幌市立北小学校 校長
事務局次長	橋詰 博	札幌市立真駒内中学校 校長
会計部長	高向 修子	藤女子中・高等学校
研究部長	森濱 祐里	札幌市立星置東小学校
庶務部長	石垣あけみ	札幌市立発寒東小学校
広報部長	小林 充裕	札幌市立東札幌小学校
ネットワーク班	山 薫	札幌市立観南小学校

事務局 札幌市立星置小学校 (長) 櫻田 豊
〒006-0852 札幌市手稲区星置2条1丁目6-1
☎011-894-7580

石狩造形教育連盟

役名	氏名	勤務先
委員長	嶋田 茂	江別市立文京台小学校 校長
副委員長	中野 悟	北広島市立高台小学校 教頭
副委員長	養島 裕二	当別町立西当別小学校 教頭
副委員長	池田 元治	江別市立上江別小学校 教頭
事務局長	山口 浩	恵庭市立松恵小学校 教頭
事務局次長	岩崎 愛彦	北広島市立大曲小学校 ネットワーク担当者
研究部長	山崎 正明	千歳市立北斗中学校
副部長	佐伯 晶宣	恵庭市立柏小学校
組織部長	井上 哲義	江別市立江別第二中学校
副部長	野口 裕司	恵庭市立恵み野中学校
事業部長	西村 司	北広島市立緑陽中学校
広報部長	川名 義美	当別町立当別中学校
監査	釜田 恵児	千歳市立千歳小学校 校長
監査	山田 浩人	千歳市立千歳第二小学校 校長
顧問	関 建治	元校長
顧問	桑田 正博	元校長
顧問	周 安藤 信行	元校長
顧問	周 基田 充泰	元校長
顧問	周 住友 俊郎	元校長
顧問	周 伝住 修一	元校長

事務局 江別市立上江別小学校 池田 元治
〒007-0066 江別市ゆめみ野南町9-3
☎011-380-1122

後志教育研究会図工美術部会

役名	氏名	勤務先
委員長	嶋影 哲弥	小樽市立入船小学校

連絡先 小樽市立入船小学校 嶋影 哲弥
〒047-0021 小樽市入船3丁目19-1
☎0134-23-5296

空知美術教育研究会

役名	氏名	勤務先
顧問	佐藤 正幸	空美O B
顧問	枝広 健二	空美O B
会長	白井万壽子	美唄市立茶志内小学校 校長
副会長	佐藤 新	由仁町立三川小学校 教頭
副会長	鎌田 俊博	妹背牛町立妹背牛中学校 教頭
事務局長	館山 唯郎	滝川市立東小学校
事務局次長	松井りおか	芦別市立芦別中学校
会計	中澤 孝仁	岩見沢市立第二小学校
総務部長	岩田 智弘	岩見沢市立豊小学校
研究部長	橋本 幸枝	岩見沢市立明成中学校
事業部長	桔梗智恵美	赤平市立豊里小学校
広報部長	伊藤 記子	美唄市立東中学校
監査	岩井 敦子	長沼町立中央長沼中学校
監査	伊藤 晃	南幌町立みどり野小学校
監査	竹田 睦生	岩見沢市立岩見沢小学校
ネットワーク班	佐藤 新	由仁町立三川小学校 教頭
地区委員	館山 唯郎	滝川市立東小学校 教諭

事務局 滝川市立東小学校 館山 唯郎
〒073-0014 滝川市文京町2丁目1-1
☎0125-23-1591

上川造形教育連盟

役名	氏名	勤務先
会長	菅原 敏光	東川町立東川第三小学校
副会長	吉田 顕康	旭川市立愛宕小学校
	菅原 良和	旭川市立永山東小学校
	鈴木 敏吾	当麻町立当麻中学校
	佐藤 之憲	中富良野町立南中小学校
顧問	及川 輝夫	元旭川市立永山南中学校
	川合 薫	元富良野市立鳥沼小学校
	加藤 隆	元旭川市立台場小学校
事務局次長	鳥本 匡洋	東川町立東川小学校
事務局次長	妻沼 大也	旭川市立近文第一小学校
	刀瀧 典雄	旭川市立台場小学校
研究推進部長	中島 圭介	旭川市立緑が丘中学校
連絡先	東川町立東川小学校 鳥本 匡洋 〒071-1426 上川郡東川町北町1丁目1-1 ☎0166-82-2426	

旭川市教育研究会図工・美術部

役名	氏名	勤務先
会長	渡辺 盛二	旭川市立近文第一小学校 校長
図工美術部顧問	吉田 顕康	旭川市立愛宕小学校 校長
顧問	菅原 良和	旭川市立旭川小学校 教頭
部長	森 洋	旭川市立啓北中学校
副部長	岡田 裕昭	旭川市立永山西小学校
副部長	中村 靖	旭川市立東陽中学校
事務局次長	吉野 法行	旭川市立光陽中学校
事務局次長	庄子 展弘	旭川市立北星中学校
会計	大山みのり	旭川市立愛宕小学校
研究推進部長	中島 圭介	旭川市立緑が丘中学校
事業部長	井山 和博	旭川市立永山南中学校
広報部長	村田 靖彦	旭川市立愛宕中学校
ネットワーク担当	庄子 展弘	旭川市立北星中学校
地区委員	川原 潤	旭川市立永山中学校
事務局	旭川市立光陽中学校 吉野 法行 〒078-8233 旭川市豊岡3条1丁目 ☎0166-31-9177	

留萌地方美術教育研究会

役名	氏名	勤務先
事業部長	滝本 郡子	増毛町立別荘小学校 教頭
事務局次長	村元 隆一	増毛町立阿分小学校 教頭
事業部	平田 佳子	増毛町立増毛中学校
事業部	河端 寿幸	留萌市立東光小学校
会計・事業部	豊崎 東洋	留萌市立緑丘小学校
副会長・事業部	酒井 典子	留萌市立留萌中学校
事業部	松村 愛里	小平町立鬼鹿中学校
研究部	梶 香織	苫前町立苫前小学校
研究部長	松岡 宏悦	羽幌町立羽幌小学校
監査役・事業部	久保なつき	羽幌町立羽幌小学校
研究部	楠本 健	羽幌町立天売中学校
副会長・研究部	野島 操	初山別村立豊峰小学校 校長
研究部副部長	西村 徳清	初山別村立初山別中学校
会長	斎藤 友昭	遠別町立遠別小学校 校長
研究部	黒川 淳子	遠別町立遠別小学校
事務局次長・研究部	小西 共美	遠別町立遠別小学校
事業部(休職中)	秋元 咲子	遠別町立遠別中学校
監査役・事業部顧問	工藤 臣	天塩町立天塩中学校
事務局	増毛町立阿分小学校 村元 隆一 〒077-0131 増毛郡増毛町阿分116 ☎0164-54-2304	

渡島美術教育研究会

役名	氏名	勤務先
委員長	村園 壽英	八雲町立相沼小学校 校長
副委員長	細川敬太郎	北斗市立久根別小学校 校長
副委員長	黒田 雅世	北斗市立茂辺地小学校 校長
監査	船橋 恭二	七飯町立大中山小学校 教頭
監査	白取 悟	北斗市立沖川小学校 教頭
監査	佐々木寿也	松前町立大島小学校 教頭
幹事長	後藤 征秀	北斗市立上磯中学校
ネットワーク担当	後藤 征秀	北斗市立上磯中学校
地区委員	村園 壽英	八雲町立相沼小学校 校長
連絡先	北斗市立上磯中学校 後藤 征秀 〒049-0156 北斗市中野通320-4 ☎0138-73-2076	

函館市美術教育研究会

役名	氏名	勤務先
会長	中村 吉秀	函館市立桐花中学校 校長
副会長	土谷 敬	函館市立えさん小学校 校長
	仲井 晴典	函館市立凌雲中学校 教頭
総務	横岸 澤英二	函館市立本通中学校
	瀧本 伸幸	函館市立深堀小学校
幹事長	木村 伸仁	函館市立銭亀沢中学校
	柿崎 雄二	函館市立高丘小学校
	西館 純	函館市立金堀小学校
	齋藤 悦子	函館市立桐花中学校
研究部	佐々木 善憲	函館市立深堀小学校
	水島 賢久	函館市立中の沢小学校
	佐々木 壮一	函館市立深堀中学校
	富尾 拓	函館市立附属中学校
事業部	山田 光	函館市立あさひ小学校
	九千房 政光	函館市立旭岡中学校
庶務部	佐藤 谷 滋	函館市立中の沢小学校
	笠松 英治	函館市立五稜中学校
経理部	山形 弘枝	函館市立北日吉小学校
	櫻井 純	函館市立的場中学校

連絡先 函館市立銭亀沢中学校 木村 伸仁
〒041-0263 函館市豊原町140-30
☎0138-58-2542

檜山造形教育研究会

役名	氏名	勤務先
会長	茶碗谷 稔	江差町立江差北小学校 校長
副会長	谷口 光伸	奥尻町立青苗小学校 校長
事務局長	花岡 康成	今金町立種川小学校 教頭
事務局次長	佐藤 等	厚沢部町立美和小学校 教頭
研究部長	鈴木 修一	厚沢部町立舞小学校 教頭
事業部長	精山 泰文	乙部町立乙部小学校 教頭
幹事	哲川 一海	上ノ国町立上ノ国小学校 教頭
幹事	山本 雅樹	江差町立南が丘小学校
幹事	山寺 潤	今金町立今金小学校

事務局 今金町立種川小学校 花岡 康成
〒049-4324 檜山郡今金町字種川369
☎0137-82-0506

胆振造形教育研究会

役名	氏名	勤務先
会長	佐竹 秀行	むかわ町立鶴川中学校 校長
副会長	佐藤 務	苫小牧市立啓北中学校 校長
事務局長	大年 教子	むかわ町立鶴川中学校
事務局次長	前田 求	苫小牧市立緑陵中学校

事務局 むかわ町立鶴川中学校 大年 教子
〒054-0051 勇払郡むかわ町文京4-2
☎0145-42-2283

室蘭市造形教育研究会

役名	氏名	勤務先
委員長	大野 達也	室蘭市水元小学校

連絡先 室蘭市立水元小学校 大野 達也
〒050-0071 室蘭市水元町5-1
☎0143-44-3311

十勝造形サークル

役名	氏名	勤務先
委員長	石割 章浩	音更町立駒場中学校 教頭
事務局長	小泉 佳一	幕別町立札内中学校

事務局 幕別町立札内中学校 小泉 佳一
〒089-0553 中川郡幕別町札内文京町29番地
☎0155-58-2016

苫小牧市造形研究会

役名	氏名	勤務先
部会長	宮下 馨彰	苫小牧市立糸井小学校
副部会長	松柳安希子	苫小牧市立拓秀小学校
	吉田とし子	苫小牧市立凌雲中学校
理事	石井 浩昭	苫小牧市立拓秀小学校
	伊藤 聖子	苫小牧市立美園小学校
幹事長	鈴木 梨沙	苫小牧市立豊川小学校

連絡先 苫小牧市立豊川小学校 鈴木 梨沙
〒053-0831 苫小牧市豊川町4丁目7-14
☎0144-73-8024

日高造形教育研究会

役名	氏名	勤務先
会長	神成 浩	浦河町立荻伏中学校 校長
副会長	北 芳樹	浦河町立浦河第一中学校
会計監査	小松 和弘	日高町立望平小学校 教頭
会計監査	福田 伸幸	平取町立紫雲古津小学校
事務局長	伊藤 孝三	新ひだか町立春立小学校 校長
事務局次長	吉村 芳三	えりも町立えりも小学校
会計委員	牧野 裕子	新ひだか町立静内第三中学校
事務局	新ひだか町立春立小学校 伊藤 孝三 〒059-2565 新ひだか町静内春立349 ☎0146-48-2131	

釧路造形教育研究会

役名	氏名	勤務先
委員長	奥田 泰朗	弟子屈町立昭栄小学校 校長
副委員長	森 富輝	浜中町立榊町小学校 校長
副委員長	小野三枝子	釧路市立釧路小学校 教頭
副委員長	内山 博之	標茶町立虹別小学校 教頭
副委員長	志藤 英樹	釧路市立興津小学校 教頭
ネットワーク担当	花輪 大輔	北海道教育大学附属釧路中学校
地区委員(事務局)	杉山 浩彰	釧路市立美原中学校
事務局	釧路市立美原中学校 杉山 浩彰 〒085-0065 釧路市美原4丁目7-1 ☎0154-37-1171	

帯広市教育研究会図工美術部会

役名	氏名	勤務先
会長	辻 敦郎	帯広市立帯広第五中学校
部長	根岸 邦昌	帯広市立西陵中学校
副部長	橋本 英子	帯広市立広陽小学校
事務局長	梅津 美香	帯広市立帯広第二中学校
事務局次長	村中 鉄也	帯広市立帯広第一中学校
ネットワーク担当	村中 鉄也	帯広市立帯広第一中学校
地区委員	梅津 美香	帯広市立帯広第二中学校
事務局	帯広市立第二中学校 梅津 美香 〒080-2474 帯広市西24条南1丁目7 ☎0155-37-2010	

根室造形教育連盟

役名	氏名	勤務先
委員長	大溝 雅之	中標津町立計根別中学校
副委員長	長谷川恵美子	根室市立共和小学校
事務局長	外川 篤司	別海町立上風連小学校
事務局次長	小出 秀朋	別海町立中西別小学校
研究部長	大橋 晃広	中標津町立中標津中学校
研究副部長	岩倉 真妃	別海町立上西春別小学校
会計監査	木庭 さち	中標津町立広陵中学校
理事	品田ちよみ	根室市立備舞中学校
理事	森 あゆみ	別海町立中春別中学校
理事	木庭 さち	中標津町立広陵中学校
理事	鈴木 將大	標津町立標津中学校
理事	谷村 舞	羅臼町立羅臼中学校
顧問	山口 長伸	別海町教育長
顧問	清水 克美	中標津町 画家
顧問	岡沢 享	根室市 働哭の森美術館長
顧問	岡 細見 浩	中標津町 版画家
顧問	岡 鍋谷 尊之	若見沢市 画家
顧問	岡 本川 勝敏	根室市 写真家
顧問	岡 煤岡 克文	根室市 版画家
顧問	岡 大井誠一郎	根室市立花咲小学校
事務局	別海町立上風連小学校 外川 篤司 〒086-0131 別海町上風連181-4 ☎0153-75-7102	

オホーツク造形教育連盟

役名	氏名	勤務先
委員長	石橋 一郎	西興部村立西興部小学校 校長
副委員長	中村 信之	雄武町立雄武小学校 校長
副委員長	光成 英二	北見市立端野小学校 校長
副委員長	西村 榮基	斜里町立斜里中学校 校長
監査	光岡 光彦	北見市立常呂中学校 校長
監査	吉田 寛	訓子府町立訓子府小学校 校長
事務局長	里見 貴史	北見市立留辺蘂小学校 教頭
事務局次長	添田 好美	網走市立中央小学校
研修部長	塩浦 亜紀	網走市立潮見小学校
ネットワーク担当(研修部長兼務)	塩浦 亜紀	網走市立潮見小学校
地区委員(委員長兼務)	石橋 一郎	西興部村立西興部小学校 校長
事務局	北見市立留辺蘂小学校 里見 貴史 〒091-0033 北見市留辺蘂町栄町18 ☎0157-42-2056	

全国図画工作・美術教育研究大会 in 北海道

大会組織

大会役員

大会会長	菅原 清貴 (札幌市：幌西小長)
大会副会長	富田 賢司 (札幌市：札幌北中長) 島田 茂 (江別市：文京台小長) 渡辺 盛二 (旭川市：近文第一小長) 中村 吉秀 (函館市：桐花中長) 奥田 泰朗 (弟子屈町：昭栄小長)
大会顧問	永関 和雄 (全国造形教育連盟委員長：町田市立町田第三中長) 岩崎由紀夫 (日本教育美術連盟理事長：大阪教育大学教授) 種市誠次郎 (北海道造形教育連盟顧問：第9代委員長) 森川 昭夫 (北海道造形教育連盟顧問：第10代委員長) 松島 輝男 (北海道造形教育連盟顧問：第11代委員長) 金井 秀男 (北海道造形教育連盟顧問：第12代委員長) 鹿嶋 健 (北海道造形教育連盟顧問：第14代委員長) 船着 昭弘 (北海道造形教育連盟顧問：第15代委員長) 白井 國敏 (北海道造形教育連盟顧問：第16代委員長) 古田 俊雄 (北海道造形教育連盟顧問：第17代委員長) 芝木 秀昭 (北海道造形教育連盟顧問：第18代委員長) 藤井 正治 (北海道造形教育連盟顧問：第19代委員長) 富田 泰 (北海道造形教育連盟顧問：第20代委員長) 今 裕子 (北海道造形教育連盟顧問：第21代委員長)

大会参与
北海道教育委員会関係者
札幌市教育委員会関係者

大会実行委員長	塚野 昭臣 (札幌市：向陵中長)
大会実行副委員長	田口 和男 (札幌市：厚別西小長) 谷山 圭子 (札幌市：あいの里西小長) 加藤 正幸 (札幌市：太平南小長) 益村 豊 (札幌市：大谷地小長) 土井 善範 (札幌市：光陽小長) 向 敏光 (札幌市：元町中長) 小泉 信嗣 (札幌市：陵陽中長) 後藤 和司 (札幌市：平岸中長) 阿部 宏行 (北海道教育大学岩見沢校准)

大会事務局長	稲實 順 (札幌市：旭小長)
全造連事務局長	時任 勝 (府中市立矢崎小)
日美連事務局長	藤丸 一郎 (室屋川市立梅が丘小長)

大会実行委員

大会実行委員長	塚野 昭臣 (札幌市：向陵中長)
大会実行副委員長	田口 和男 (札幌市：厚別西小長) 谷山 圭子 (札幌市：あいの里西小長) 加藤 正幸 (札幌市：太平南小長) 益村 豊 (札幌市：大谷地小長) 土井 善範 (札幌市：光陽小長) 小泉 信嗣 (札幌市：陵陽中長) 後藤 和司 (札幌市：平岸中長) 阿部 宏行 (北海道教育大学岩見沢校准)

大会事務局長	稲實 順 (札幌市：旭小長)
大会事務局次長	櫻田 豊 (札幌市：星置東小長) 川島 正夫 (札幌市：手稲北小)
全道研究統括	湯浅 大吾 (札幌市：伏見小)
全道地区サークル統括	向井 正樹 (札幌市：あいの里東中)

運営委員	池田 元治 (江別市：上江別小頭) 白井万寿子 (美唄市：茶志内小長) 嶋影 哲弥 (小樽市：入船小) 菅原 敏光 (東川町：東川第三小長)	村國 壽英 (八雲町：相沼小長) 木村 伸仁 (函館市：銭亀沢中) 茶碗谷 稔 (江差町：江差北小長) 佐竹 秀行 (むかわ町：鶴川中長)
------	---	--

		森 洋 (旭川市：啓北中)	大野 達也 (室蘭市：水元小)
		野島 操 (初山別村：豊岬小長)	宮下 肇彰 (苫小牧市：糸井小)
		神成 浩 (浦河町：荻伏中長)	杉山 浩彰 (釧路市：美原中)
		石割 章浩 (音更町：駒場中頭)	石橋 一郎 (西興部村：西興部小長)
		辻 敦郎 (帯広市：第五中長)	大満 雅之 (中標津町：計根別中)
会場校事務局		伊藤 聡美 (札幌市：幌西小)	
顧問		福島由紀子 (札幌市：円山小)	
		谷山 圭子 (副)(あいの里西長)	澤波 隆信 (前田中央小頭)
		池田 悦子 (稲積小長)	藤森 久美 (手稲西小頭)
		土井 善範 (副)(光陽小長)	土肥 宏充 (厚別北小頭)
		益村 豊 (副)(大谷地小長)	安木 尚博 (川北小頭)
		田口 和男 (副)(厚別西小長)	葛西 実 (平岡公園小頭)
		篠原 寛 (西小長)	阿部 時彦 (藤野中頭)
		伊藤 正敏 (開成小長)	勝田 真塩 (稲積中頭)
		加藤 正幸 (副)(太平南小長)	小野 泰裕 (西岡北中頭)
		松原 和彦 (北小長)	岡澤 邦彦 (東栄中頭)
		山田 宏司 (青葉小長)	柿崎 雅夫 (前田北中頭)
		古谷 壽郎 (札苗小長)	森長 弘美 (前田中頭)
		後藤 和司 (副)(平岸中長)	今 裕子 (前福住小長)
		小泉 信嗣 (副)(陸奥中長)	石谷 正美 (前北白石中長)
		向 敏光 (副)(元町中長)	植木 則子 (前常盤小長)
		橋詰 博 (真駒内中長)	
		阿部 宏行 (副)(教育大岩見沢校准)	
		長谷川 右 (札苗幼長)	
		芝木 捷子 (中の島幼長)	
		高橋 優子 (平和幼長)	
【会計部】			
統括部長		三井 哲 (平岡中央小長)	
部長		高向 修子 (藤女子中高)	平野まなみ (西岡中頭)
		本間 真理 (西野小)	
補務局顧問		益村 豊 (大谷地小長)	
部員		谷山 圭子 (あいの里西小長)	小野 泰裕 (西岡北中頭)
【庶務部】			
統括部長		筋内 浩之 (真駒内曙小)	
部長		伊藤 聡美 (幌西小)	石垣あけみ (発寒東小)
		氏家 珠実 (西野第二小)	山室ゆかり (山鼻南小)
補務局顧問		松原 和彦 (北小長)	
部員		池田 悦子 (稲積小長)	橋詰 博 (真駒内中長)
		向 敏光 (元町中長)	藤森 久美 (手稲西小頭)
		上田 克美 (さくすいもとまち幼)	杉森久美子 (中央幼)
		毛利 聡 (澄川南小)	二ツ山かおる (上野幌東小)
		秋田 梨恵 (元町北小)	久保ふじ子 (東苗穂小)
		岩田 守代 (栄小)	浅沼さゆり (中央小)
		椿野 衣江 (真栄中)	森岡 香子 (稲穂中)
		大町 香織 (向陵中)	越川 欣子 (八軒中)
		越智 千鶴 (札苗中)	佐藤 麗子 (太平中)
		杉浦 篤子 (藤女子大授)	山崎 久子 (西陵中)
		名達 英詔 (教育大旭川校准)	仲嶋 貴将 (札幌大谷大)
【総務部】			
統括部長		東 尚典 (平岡中央小)	
部長		小野 博史 (中の島小)	加藤 雅子 (屯田西小)
		館内 徹 (あやめ野中)	
補務局顧問		田口 和男 (厚別西小長)	阿部 宏行 (教育大岩見沢校准)
部員		伊藤 正敏 (開成小長)	土肥 宏充 (厚別北小頭)
		阿部 時彦 (藤野中頭)	
		八子 晋嗣 (真駒内南小)	隈本 一哉 (前田中央小)
		元茂 章子 (南の沢小)	東 政美 (豊平小)
		今谷 孝 (八軒北小)	沼田 玲子 (北光小)
		中村 麻紀 (厚別西小)	中山 龍雄 (星雲中)
		高橋 倫子 (栄南中)	

【会場部】

統括部	部長	八田 博之 (中央小)	
部	部長	池田 武彦 (本郷小)	白井 真澄 (二十四軒小)
		寺田 実 (附属中)	金子 睦 (中央中)
事務局顧問	佐	後藤 和司 (平岸中長)	
	問	篠原 寛 (西小長)	古谷 壽郎 (札苗小長)
部	員	葛西 実 (平岡公園小頭)	柿崎 雅夫 (前田北中頭)
		高松 摩衣 (ひまわり幼)	岩崎 重明 (南月寒小)
		宮澄 信博 (藤野南小)	東野 留美 (幌西小)
		小野 正二 (開成小)	押田 一朗 (富丘小)
		石川 恭子 (平和小)	平本 康洋 (桑園小)
		蒲谷 貴史 (澄川中)	下村 愛 (陵北中ひまわり)

【広報部】

統括部	部長	中居 正光 (菊水小)	
部	部長	松本 和彦 (発寒小)	福島由紀子 (円山小)
		小林 充裕 (東札幌小)	大高 雅子 (柏中)
事務局顧問	佐	小泉 信嗣 (陵陽中長)	
	問	加藤 正幸 (太平南小長)	山田 宏司 (青葉小長)
部	員	澤波 隆信 (前田中央小頭)	森長 弘美 (前田中頭)
		櫻田 悟 (平和小)	大門 沙織 (元町北小)
		富波 修 (北園小)	高梨 美幸 (西岡南小)
		菊地 惟史 (白楊小)	今 千香 (稲積中)
		斎藤 啓代 (小樽向陽中)	佐々木雅子 (小樽桜町中)
		棚田 裕美 (江別大森中)	

【研究部】


統括部	部長	森實 祐里 (星置東小)	
部	部長	堀口 基一 (附属小)	小林 知広 (幌西小)
		水野 一英 (宮の森中)	高橋久美子 (稲積中)
		平井 歩 (啓明中)	
事務局顧問	佐	土井 善範 (光陽小長)	
	問	長谷川 右 (札苗幼長)	芝木 捷子 (なかのしま幼長)
部	員	安木 尚博 (川北小頭)	高橋 優子 (平和幼長)
		勝田 真塩 (稲積中頭)	岡澤 邦彦 (東栄中頭)
		森 美由紀 (白楊幼)	三浦真奈美 (いなづみ幼)
		山 薫 (幌南小)	宮田 珠世 (円山小)
		藪下 栄一 (藤野南小)	中川 治 (伏見小)
		祖父江 瞬 (中の島小)	岡田 知之 (石山小)
		菅 淳子 (栄東小)	濱口 裕子 (緑丘小)
		坂口 健 (平岸小)	岩井 久根 (豊平小)
		小柳 雄嗣 (発寒西小)	千葉紗希子 (和光小)
		奥山 綾芽 (常盤小)	柿本美奈子 (伏見小)
		古伊 宏子 (幌西小)	中 奈津子 (南の沢小)
		藤岡 真弓 (手稲西小)	阿部 俊樹 (手稲鉄北小)
		橋本 祥子 (あやめ野小)	矢野 宣利 (百合が原小)
		南 直子 (開成小)	本多 隼人 (北野平小)
		土門 俊介 (幌西小)	狩野 沙織 (菊水小)
		岡部 理佳 (発寒南小)	千葉 まゆ (信濃小)
		石川 早苗 (八軒東中)	豊田 ゆき (屯田北中)
		伊藤 尚 (八条中)	北川 珠実 (東月寒中)
		小林 秀史 (東白石中)	六本木祐司 (山鼻中)
		細川亜矢子 (米里中)	久蔵美和子 (稲積中)
		多田 絵美 (西岡中)	寺林 陽子 (あいの里東中)
		市川 雅基 (屯田北中)	則友 牙子 (札苗北中)
		木原 英俊 (月寒中)	浅井 邦昭 (北陽中)
		西山 昇 (石山中)	八重 豊真一 (発寒中)
		安田 仁昭 (平岸中)	川内亜矢子 (手稲中)
		中西 毅 (向陽中)	安藤 桃子 (手稲中)
		浜口 秀樹 (平岡中)	齋藤 周 (旭丘高)
		佐藤 一明 (平岸高)	平向 功一 (札幌大谷大)

会場校 教職員名簿

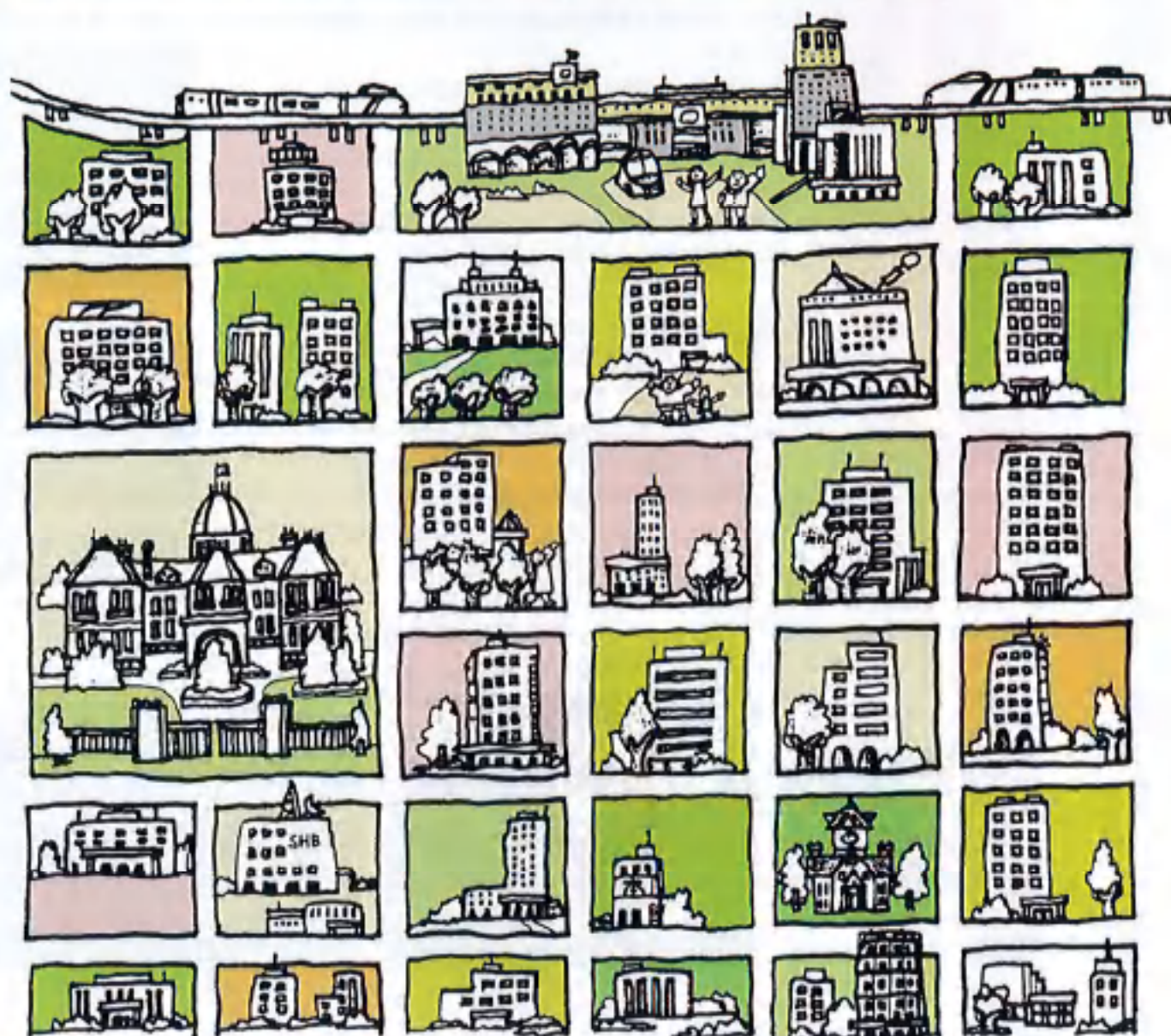
札幌市立幌西小学校

校長	菅原 清貴		教頭	津田 安彦		
総務	足立 教・伊藤 聡美・安達 正博 小林 知広・長門 康博・鈴木 明子					
各担任	1年1組	余田 峻也	3年1組	高藤真起子	5年1組	阿部 勇登
	2組	月田 清乃	2組	土門 俊介	2組	野島 幸絵
	3組	小林 修	3組	三木 敦子	3組	首藤 功二
	4組	戸田三香子	4組	矢野 聡史	4組	木村美沙子
	5組	伊藤 冴子			5組	浪岡 伸樹
	2年1組	樋浦 美香	4年1組	川島 貴裕	6年1組	芳賀 大介
	2組	大嶋 悠基	2組	大坪洋一郎	2組	中原 真二
	3組	吉伊 宏子	3組	東野 留美	3組	橋本 怜奈
	4組	平沼 啓	4組	青木美知枝	4組	高島 護
産休・育休	阿部 聡子					
養護教諭 事務職員 栄養職員 用務員	村田さとみ・泉本みなみ 稲川 京子 表 淳子 梅田 孝志・清川 孝		業務員 施設利用 学校開放	渋谷 直子 山本 雅子・南出 利男 吉田 潔・安達 進		
給食 調理員	沼田 研二(チーフ)・原 由美子・竹井 和子・河内ひかり 植野 貴恵・戸澤 美咲・白川 共美					

札幌市立円山小学校

校長	佐々木雅史	養護教諭	高橋 由美	調理員	漆原 直子	
教頭	細矢ともえ		伊藤 加奈		浦口 和代	
主幹教諭	菅野 英人	事務主任	本間 昌子		川崎久美子	
教務主任	越野 宗文	事務職員	相坂 珠姫		斎藤 京子	
保健主事	佐野 祐二	栄養教諭	高橋 一恵		阿部ゆかり	
総務	三浦菜乃子	学校業務員	大淵 弘美		小山内直子	
TT担当	小木田健二	用務員	澤山 志		菊地 幸子	
	井村 信治		長内 晃		宮本美栄子	
教職員54名 児童894名 (h23.5)					〃(拠点校)	三川さおり
	1組	2組	3組		4組	5組
1年	大嶋 佳子	廣山 元彦	久保井 健	長谷川由布子	北本 泰司	
2年	池上 早希	水谷 学志	福島由紀子	河野 晃久		
3年	鈴木 賢	宮田 珠世	澤田 敦	向坊 紫織		
4年	佐藤 郁子	松尾奈美樹	堀尾千佳子	青柳 大介		
5年	中井 美絵	中村 光晴	竹下 祐里	櫻 岳樹		
6年	丸山 悠	高橋 幸恵	石黒 智志	松原 優子		
ハートフル	田村 太一 土橋 沙絵 千葉 裕子					

会場校紹介 開催地マップ 会場図



こう

幌

さい

西

小

学

校

本校は、札幌の中央区にあり、開校86年目。都心部にありながら閑静な住宅地で、市内でも有数の文教地区です。卒業生には、小説家の渡辺淳一氏や日本総合研究所の寺島実郎氏など高名な方も多いのです。愛校心が深く、地域の方々が様々な場面で、本校の教育活動に協力いただいています。

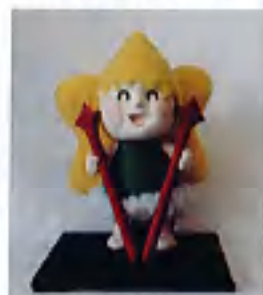


学校経営理念がこれです。

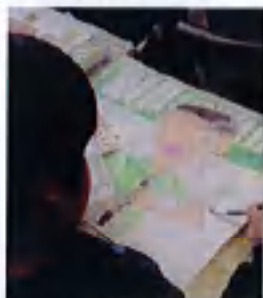
幌西って…あったかい!

「幌西って…あったかい!」これが学校経営の柱です。学校が子ども同士、教師と子ども、保護者と教師が心通い合う温かな人間関係を紡ぎ合える場となることを願っています。

昨年本校は、第69回全国教育美術展において文部科学大臣奨励賞をいただきました。その表彰式の折、元調査官奥村高明氏より「特選になった子の指導者が全部違う学校は珍しい。」とお話いただきました。本校は、各学級の先生が実態を正確に把握することを心がけ、学級づくりの目標を設定し達成のための取組を日常的に行っています。これを「クラスミッション」として、年間何度かの全校的な交流を重ねながら、よりよい学級経営に努めています。それは、一人ひとりの教師の持ち味を生かしながら、働きがいのある学校をつくることでもあるからです。この取組の中での受賞であったので、私は大変感激もしました。また、平成21年度に文部科学省が行った「電子黒板を活用した教育に関する調査研究」の委託校に指定されました。このことにより28学級（今年度26学級）すべてに電子黒板が設置されています。造形教育においても、その活用を工夫しているところです。



「ピカリン」



“白分色”に

この他にも、ご紹介したいことがたくさんありますが、紙面の都合で残念です。続きは、学校ホームページをご覧ください。学校研究会で上映した映画の予告編も動画で配信しています。



<http://www.kosai-e.sapporo-c.ed.jp/>



トントん“わたし”を切る



「電子黒板」が全学級に配置

「さくら花咲き 風におう」円山小へようこそ!

学校紹介

〒064-0821 札幌市中央区北1条西25丁目1番8号 電話 011-631-3437 FAX 011-615-6593



本校は、平成23年度開校136年を迎える札幌市内でも有数の歴史と伝統に輝く学校です。

現在、894名の児童が54名の教職員からのあたたかなまなざしを受けながら、緑豊かな円山の麓で学んでいます。

学校経営理念がこれです。

あふれる“愛”みなぎる“力”つよまる“絆”

愛と力と絆。代々受け継がれてきたこの3つの漢字は、現在もなお、本校に関わりある人々の心の中に息づき、日常の教育活動の創造と展開のバイブル的な役割を果たしています。

今回の造形教育の研究会をきっかけに、ますますの情操面の育みを期待しているところです。

本校の造形的な特色ある教育環境をご紹介します。

高いセキュリティの玄関から職員室前を通ると、そこにはエントランスホールがあります。まるで、ギャラリー円山ともいふべき芸術的な雰囲気的空間です。

ここに掲展示されている造形作品をいくつか紹介します。

■登下校時に、子どもたちと挨拶を交わすキャラクター人形の「さくまる」ちゃん。インフォメーションボードでもあります。「さくまる」ちゃんは平成22年北海道教育大学岩見沢校との連携事業で児童から募集した作品をもとに誕生しました。



「さくまる」ちゃん

■ピタゴラスイッチから発案した、「ビー玉サーキット」。落下運動、遠心力、摩擦、確率など理数科的な要素ふんだんで大人気のゲームです。

■札幌在住の画家（片桐三晴さん）から、「円山小の子どもたちの造形教育に生かして!」と寄贈いただいた、題して「仮面舞踏会」。廃材利用でありながら高い芸術性の作品です。

この他に、ご紹介したいことがたくさんありますが、紙面の都合で…。残念です。続きは、学校ホームページでご覧ください。



<http://www.maruyama-e.sapporo-c.ed.jp/>



「仮面舞踏会」



「ビー玉サーキット」

円山小学校

まるやま

大会開催会場

大会2日目 [7/27(水)]

■円山小学校

札幌市中央区北1条西25丁目1-8
電話 011-631-3437



大会1日目 [7/26(火)]

開会 10:00~

大会2日目 [7/27(水)]

レセプション 18:00~

■ホテルライフォート札幌

札幌市中央区南10条西1丁目
中島公園内
電話 011-521-5211

アクセス

地下鉄南北線「中島公園駅」下車
1番出口より徒歩3分
JR札幌駅からタクシーで約10分



大会3日目 [7/28(木)]

■札幌芸術の森 (オプションツアー)

札幌市南区芸術の森2丁目75
電話 011-592-5111

豊かな自然環境のなかにあり、広さ40haにおよぶ敷地には、鑑賞、発表、制作、研修、情報交流の機能を備えた各種芸術施設があります。

アクセス

地下鉄南北線「真駒内駅」の中央バス
2番乗り場【空沼線】【滝野線】に乗車、
約15分



マップ



大会3日目 [7/28(木)]

■モエレ沼 (オブショールパーク)
札幌市東区モエレ沼公園1-1

モエレ沼公園は、彫刻家イサム・ノグチが計画に参画し、「札幌市環状グリーンベルト」構想の北部系緑地の核となる都市公園です。

アクセス

地下鉄東豊線「環状通駅」から
中央バス【東6】「あいの里教育大駅前」行き乗車
中央バス【東7】「中沼小学校通」行き乗車
地下鉄南北線「北34条駅」・
地下鉄東豊線「新道駅」から
中央バス【東76】「中沼小学校通」行き乗車



大会3日目 [7/28(木)]

9:30~

■札幌市民ホール

札幌市中央区北1条西1丁目
電話 011-252-3700

子どもアート展2011

幼児から高校生まで

[7/28(木)~8/2(火)まで]

10:00~19:00

(最終日のみ17:00まで)

■道新ぎゅらりー

札幌市中央区大通西3丁目
北海道新聞社北一条館1階 道新プラザ内

アクセス JR札幌駅より徒歩約15分

地下鉄東西線・南北線・東豊線「大通駅」31番出口正南



大会2日目 [7/27(水)]

■幌西小学校

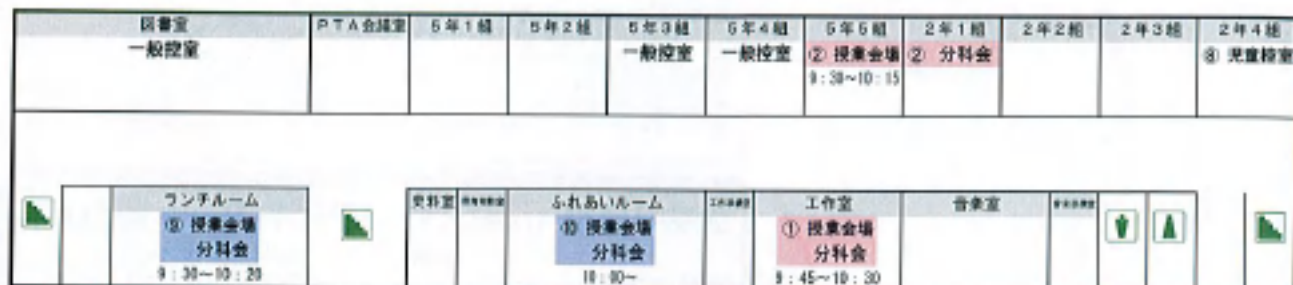
札幌市中央区南10条西17丁目1-1
電話 011-561-2201



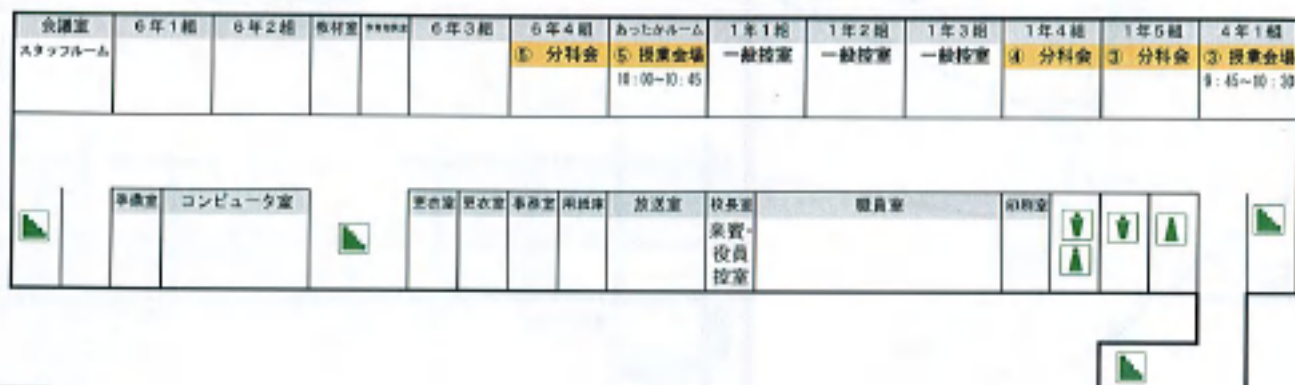
里塚公園

幌西会場 会場図

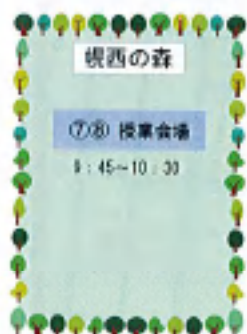
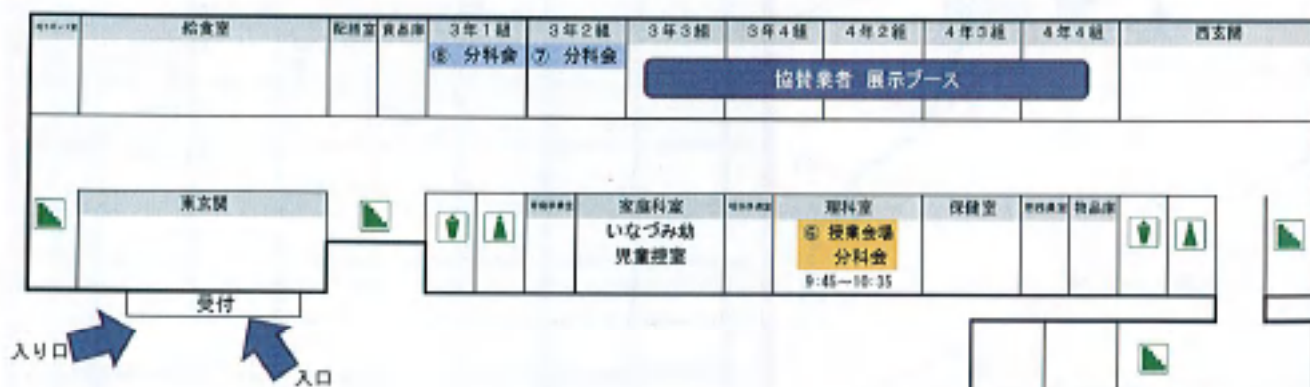
3階



2階



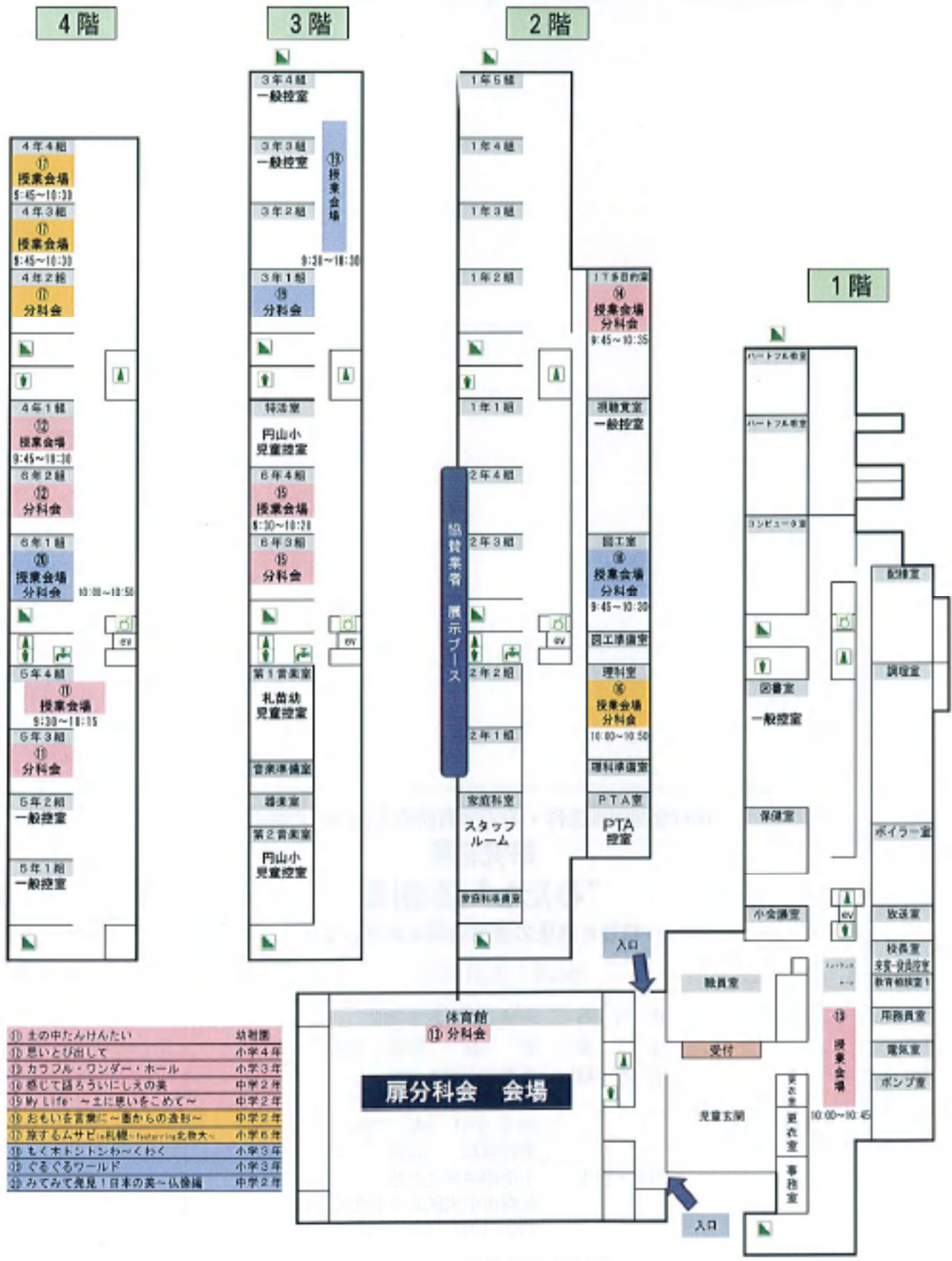
1階



- | | |
|----------------------|------|
| ① どんどん広がる みんなの色 | 小学1年 |
| ② くるくるカラフル | 小学4年 |
| ③ ぼく・わたしの心もよう | 小学4年 |
| ④ 空を遊ぶ | 小学3年 |
| ⑤ まこら はなそう かんじよう | 小学6年 |
| ⑥ Peace Message Card | 中学2年 |
| ⑦ たじろのもりであそぼう | 絵画部 |
| ⑧ | 小学2年 |
| ⑨ 大切な相手へ～色のおもてなし～ | 中学1年 |
| ⑩ 高校の美術のあり方と授業 | 高校 |

④ 授業会場
9:30~10:30
屏分科会 会場

円山会場 会場図



- | | |
|----------------------|------|
| ① 土の中たんけんたい | 幼稚園 |
| ② 思いとび出して | 小学4年 |
| ③ カラフル・ワンダー・ホール | 小学3年 |
| ④ 感じて語るういしえの美 | 中学2年 |
| ⑤ My Life ～土に思いをこめて～ | 中学2年 |
| ⑥ おもいを言葉に～画からの造形～ | 中学2年 |
| ⑦ 旅するムサビ(札幌～旭川～北見～) | 小学6年 |
| ⑧ もくもくソントシわ～くわく | 小学3年 |
| ⑨ ぐるぐるワールド | 小学3年 |
| ⑩ みてみて発見!日本の美～伝説編 | 中学2年 |

2011全国図画工作・美術教育研究大会 in 北海道
研究紀要

“わたし”を創る

～自立と共生の造形教育をめざして～

2011年7月26日発行

発行者 北海道造形教育連盟
代表者 会長 菅原 清貴
事務局 札幌市立旭小学校
TEL (011-811-4148)
FAX (011-811-1382)
事務局長 稲實 順

印刷・製本 小南印刷株式会社
札幌市中央区北9条西23丁目
TEL (011-641-5373)

